

Japanese
Life Story
51-0722A

ライフストーリー (人生の物語)

トレド オハイオ州 アメリカ合衆国
1951年07月22日



www.messagehub.info

ウィリアム・マリオン・ブラハム

"...第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される。" 黙示録 10:7

はじめに

際立ったウィリアムブラナムのミニストリーは、マラキ4章4,5,6及びルカ書17:30と黙示録10:7と多くの聖書の預言に対する聖霊からの答えなのです。この世界規模のミニストリーはこの終わりの時に聖霊による神の御業の継続なのです。それは聖句の中にあり、イエスキリストの再臨のためにある人々を整えるために立ち上げるために必要とされていると書かれています。

あなたが祈り深くこのメッセージを読むとき、この印刷された御言葉があなたの心に刻まれるようにと祈ります。

メッセージの正しい転写、翻訳を提供できるように最善を尽くしておりますが、英語の録音がウィリアムブラナムによって語られた説教をもっともよく表しているものです。

オーディオや転写された1100の説教がウィリアムブラナムによって語られたものが無料でダウンロード可能で又多くの言語で印刷可能になっています。(日本語での翻訳あり)

変更が行わないかぎり、メッセージを無料でコピー、配布することは許可されています。

ここにいますか？ここに誰がいる？神が私たちの中にいると信じるなら。… [テープ上の空白部分。]手を挙げてこう言う人もいるでしょうか“ブランナム兄弟、私はまだ救われていません。”手を挙げて、「私のために祈ってください」と言ってくれませんか。神様に慈悲を乞ってほしい”？

建物の中に1つない？神のご加護がありますように、兄弟。一人の罪人が。…神のご加護がありますように、兄弟。神のご加護がありますように；あなたの手が見えます。他の誰か？言ってください、“私のために祈ってください、ブランナム兄弟、祈りの中で私のことを覚えていてほしいのです。”

ライフストーリー (人生の物語)

1 ありがとう、バクスター兄弟。

皆さん、こんにちは。——いや、午後ですね。南部に行けば、これがもう「夕方」になるんです。そして七時を過ぎれば「夜」。私はどうも、その区別がいまだにうまくつかめません。

それに、「ディナーを食べています」と言われて時計を見ると七時だったりする。けれど私の母は、畑を耕している私を十二時に呼びに来て、「さあ、ディナーの時間よ」と言ったものです。

土地が違えば、朝食、昼食、夕食の呼び方も違う。だから時々、「どこかで一食分、損したんじゃないか」と思うことさえあります。

やはり、人は育った環境の影響を受けるものですね。そう思いませんか？

さて、こうして本日の午後、皆さんとご一緒できることを本当に嬉しく思います。

この会堂はとても暑いですが、神様がここで私たちと出会ってくださり、祝福を与えてくださることを信じています。

そして今夜は、この一連の集会の最終夜となります。

ここを出てからは、ペンシルベニア州エリーへ向かいます。

私たちは、いつでも、どこでも、皆さんのお越しを心から歓迎いたします。

友人の皆さんに再びお会いできることは、どんな場所であっても、私たちにとって大きな喜びなのです。

2 先ほど案内係(アツシャー)の方々にお会いしました。

私はいつも集会に入ると、そのまま奉仕に入ってしまうので、なかなか皆さんとゆっくりお会いする時間がありません。

それで、やっと何人かの兄弟たちと顔なじみになった頃には、

「さあ、そろそろ次の場所へ行かなくては」と言わなければならないのです。

でも今回は、これで一区切りです。

もし主が許して下さるなら、海外——アフリカから戻ってきたとき、私はもう前もって組まれた行程表(イテナリー)は持たないつもりです。

正直に言って、それがいつも私を苦しめてきました。

ちょうど、神様がその場所で働こうとしておられると感じるその時に、

「さあ、次へ行かねばならない」という予定が入っている。

今この場所でも、私はこう思うのです。

もし神様がここを望まれるなら、ここに留まるべきだ、と。

しかし予定がある。

「次へ行かなければならない。」

それがいつも心を痛めるのです。

私は本当は、神様が

「ここでの働きは終わった。次へ行きなさい」

とおっしゃるまで、その場に留まりたいのです。

ちょうど五日、六日と集会が続き、人々の関心が高まり始め、

皆が見始め、理解し始め、信仰が芽生え始める——

まさにその時に、出発しなければならないのです。

3 この一連の集会の中で、特にこの最後の二晩は……

私がこれまでどの場所、どの集会でも感じたことのないほどの、大きな油注ぎを感じました。

一昨夜のことは、それを超えるものは今までありません。

主が、まるで顔と顔を合わせるように近づいて来られたのです。

私は……いつ壇上を離れたのか、自分でも分からないのです。

気がついた時には、どこか外のガレージにいました。

私が今[不明瞭な言葉]で歩いている足跡が。私の人生は半分以上なくなってしまいました[不明瞭な言葉]。いつか私の魂は向こうに戻らなければなりません。モーニングスターよ、その時私のそばに立ってください。

国を横断し、素敵な友人や福音の奉仕者に会いました[テープの空白部分]…祈ったり、病人や苦しんでいる人たちに、寝たきりの小さな母親たちを見てください、ああ、私は結核の悪魔がどれほど嫌いか、それが私の家族をどれほど粉々に砕いたか。おお神よ、私を助けてください。主よ、私が召命に忠実であるように助けてください。そしていつかすべてが終わったら、今日の午後ここにいるこの小さなグループ、ああ、私は[不明瞭な言葉]他の何千人ものグループを増やしたことを認めてください。最後の戦い、最後の説教が説教されるとき、主よ、私たちがあなたの御前に立って、喜び、不死の冠をかぶって愛する人たちに会えますように。

104 そして今日ここにいる多くの人は、人生の悲しい通りを見ました。彼らの愛する人、母親、父親、子供たちは続いています。彼らは、家に帰ることが何であるかを知っています。ここにいる多くの男性は、家に帰っても子供たちに母親がいないことが何であるかを知っています。多くの人は、幼い幼児が芝生の下に置かれた母親の腕の中で遊んでいるのを見るのが何であるかを知っています。そして神よ、私たちはイエスが来られ、墓が開かれ、愛する人たちが再び不滅の体で現れる日を楽しみにしています。ああ、主よ、私たちはあなたをどれほど愛しているか、私たちの信仰をしっかりと保ちましょう。

もし今日ここに人がいるとしたら、私たちの天の父は、罪の赦しにおいてあなたを知らないのに、神と人間の間の唯一の仲介者であるあなたの最愛の御子を決して受け入れませんでした。彼らが今日、優しく謙虚に手を滑らせてくださいますように。そして彼らの心をあなたに伝え、「親愛なるイエスよ、私はここにいます」と言ってください。私が命を捧げてあなたに仕えるために、私をありのままに受け入れてください。そして、ブランナム兄弟の間違いにより、私はあなたが私をそのような側溝から引きずり込まなければならないようなことは決してしません。しかし、私は今あなたに触れることで、あなたの恵みによってそれを回避します。許してください、親愛なる天の父よ。この待っている聴衆を祝福してください。

105 さて、頭を下げている間に、ちょっと待ってください。キリスト教徒たちが、ああ、あの恐ろしい時間をもう一度生きられるように祈っている間、私は赤ん坊になるつもりはありません。[テープ上の空白部分。]

ああ、主よ、キリストに命を捧げるために今名乗り出る[不明瞭な言葉]はこ

て、あの小さな古いモリスの椅子、あの小さなフットスツールに座りました。私は眠るまでそこに座って聖書を読みました。そしてそれはその時消えていました；私たちにはそれがありませんでした。払えなかった。そして私は疲れ果ててしまうでしょう。そして彼女は周りを見回して言いました、「今、このビジョンで彼女を見ると、彼女は言いました。“あの椅子を覚えていますか？”」

私は言いました、“はい。”

言った、“金融会社は来たの？”

私は言いました、“ええ、覚えています、ハニー。”

彼女は言いました、「“でもビル、彼らは決してこれを取りに来ないでしょう。これはすでに支払われています。”それはあなたのものです、置いて、少し休んでください。”

103 ああ、キリスト教徒の皆さん、いつか私は定命のケンの手の届かないところを知っています、いつか神はいつどこで定命の命の車輪がすべて静止するかしか知りません；それから私はシオンの丘へ旅行するつもりです。そこでまた彼女に会い、イエスに会います。I'll see my baby; I'll see my loved ones. 赤ちゃんに会えるよ。

嬉しい明日が待っています

真珠の門が大きく開く場所、

この悲しみの谷を越えたとき、

向こう側で休みます。

ハレルヤ！私は今日、心から彼を愛しています。赤ちゃんにはなりたくない。ああ、神様、憐れんでください。そして、この古い[不明瞭な言葉]は、涙と心の痛みと悩みとともに街を横切りました。ああ、父よ、私は生涯ずっと主に仕えてきました。…なぜ私は以前に[不明瞭な言葉]をしたのでしょうか。そして、親愛なるイエスよ、私はこの十字架が何であろうと、あるいはそれがどれほど軽蔑的であるように見えても、あなたのために生き、そのことを行うよう心から努力してきました。愛しいイエスよ、私はあなたを愛しています。あなたは私の心を何度も傷つけましたが、私はそのことであなたを愛しています。そして、親愛なる神よ、私は今、あなたが私に与えてくださった使命を果たすのを助けてくださり、私が喜んでコースを終えることができるように祈ります。そしていつか人生が終わり、

それほどまでに、主の臨在は深く、現実でした。

翌朝、兄弟たちにこう尋ねました。

「まだ癒されていない病人はいましたか？」

私には、まるですべての人がその中に包まれたように思えたのです。

本当に、あの場にいた全員に触れられたはずだ、と。

ただ——もしかすると、その瞬間に、あなたはそれを期待していなかったのかもしれない。

4 かつて、イリノイ州ヴァンダリアで——奉仕の初期の頃でしたが——

あのような油注ぎが一度に臨んだことがありました。

その時は、弱った人が一人も残らなかったのです。

車椅子も、松葉杖も、担架も、すべて隅に積み上げられ、運び出されました。

まるで、すべてが同時に起こったかのようでした。

ああ……今夜、もう一度それを見たいものです。

ここを見渡すと、多くの方々がいます。

すでに癒された方もいます。足の不自由だった方、さまざまな状態だった方々です。

私は人々を見てみると、多くの場合、その人に何が起きているのかが分かります。

けれど、それが本質ではありません。

私が、一見すると健康そうに見える人を呼ぶことがあるのは、そのためです。

それが“現象的な側面”なのです。

外見は健康に見える。

けれど、実際には何かがある——

そこに神の御手が働くのを見る時、人々ははっきりと気づくのです。

5 もし、目に見えて足の不自由な方に向かって

「あなたは足が不自由ですね」と言ったとしても——

それは誰でも肉眼で分かることです。

それなら特別なことではありません。

確かに、私にもその人の状態が見えることはあります。

けれど私は、めったにそのことを口にしません。

ただ一つの場合を除いて——

それは、その人がすでに癒されたのを見た時です。

私が呼ぶのは、その時です。

神様はすでにその人のために御業をなさっている。

その人の信仰が、ある一点に到達した——

それだけのことなのです。

私はただ、それを確認するだけです。

ところで、この後ろではあまり声がよく聞こえないのではありませんか？

音の響きが少し悪いようですね。

でも音はあちらへ流れていっているようです。

6 さて、バクスター兄弟が今日の午後、私の生涯の証しについて話すと言われましたが……

ここにその話を聞いたことのある方はどれくらいおられますか？手を挙げてみてください。

——ほんのわずかですね。

そして周りを見回しました；そこには素晴らしい大きなモリスチェアのセッティングがありました。そして私は彼女を見渡しました、そして彼女は私を見て微笑みました。彼女は私たちが何を言っているのか知っていました。

102 一度行きました。… 私は。… 私たちはただ古いヒッコリーの底の椅子を持っていました；私はあなたが彼らが何であるかを知っているか、私はあなたが何であるかを知りません、ヒッコリーの交差で交差してレース；私たちは2つを持っていました。そして、そこに彼らの一人がいて、私はモリスの椅子を買って、15ドル支払いました。私は1ドルずつ頭金を払い、その代金を支払うために週に1ドル支払いました。そして5、6ドルほど支払いました。どうしても支払いができませんでした。あなたは物事がどのように困難になるかを知っています、そしてあなたは家計をやりくりすることができません；あなたは私が言いたいことを知っています。そして、私は支払いができず、彼らは私にダンを送ってくれました。彼らはそれを取りに来るつもりだった。

そしてある日、私が入ってくると、彼女は私にチェリーパイを焼いてくれました、彼女の心を祝福してください。そして彼女は玄関で私に会い、「“ああ”その夜釣りか何かに行ってほしい」と言いました。そして彼女は私のためにチェリーパイを焼いてくれました。彼女は言いました。“ああ、最高のチェリーパイを買ってあげたわ。”彼女は私がチェリーパイが大好きだと知っていました。そして何かおかしいと思いました。

それで夕食後、彼女は言いました、“さて、私は子供たちに釣り用のミミズを掘ってもらいました、”言いました、“私たちは釣りをするために川を下ります。”

そして彼女が興奮しているのが見えました。そして夕食後、私は言いました。“少しの間、居間に入ってみましょう。”

彼女は言いました、“いやいや、出かけましょう..”

そして私は彼女の周りに腕を回して言いました、“ああ、ハニー、あなたは素敵な妻です。”

そして私たちはドアを通り抜けました、そして彼女は私の肩に頭を置いて泣き始めました；彼女は言いました、“ビル、私はあなたのためにそれを保管しようとして一生懸命努力しました。”

私は言いました、“わかっています、ハニー、でも私たちはそれを助けることができませんでした。”時々、とても疲れてほとんど我慢できないほど入ってき

言いました、“ビル。”

私は彼女のところへ行き、こうして倒れました。私が会議から来てとても疲れているとき、彼女は何度も私の周りに腕を回し、いつも私を撫でてくれました。彼女は言いました、「“ああ、ハニー、あなたはとても一生懸命努力しました；若いうちに健康を害してしまうのではないかと心配です”」そして私の背中をそのように撫でました。そして私は彼女の膝の上に倒れ込み、彼女は私の周りに腕を回し、こう言いました。“ビル”

そして私は言いました、“ハニー、わかりませんか？” 私は言いました、“そこでシャロンに会いました。”

彼女は言いました、“はい、彼女はあなたを待つために降りると言いました。”

私は言いました、“私たちの女の子は美しい若い女性を作らなかったのですか？”

彼女は言いました、“はい。”

私は言いました、“彼女はビリー・ポールを待っています、と彼女は言いました。”

“はい、入って来ませんか？”と言いました

そして私は言いました、“ハニー、” 私は立ち上がって言いました、“とても疲れているので、ほとんど我慢できません。” 私は言いました。“私はただこの病人のために祈ってきたのです。そして、この病人のために祈ってきたのです。” そして、当時私はこのような会議を開いていなかったことを思い出してください。

そして彼女は言いました、“私はそれについてすべて知っています、ビル。”

101 病人のために祈っているからこそ、いつかプラットフォームから行くことになるかと信じています。ほら？そして私は.. 私は言いました。“私はただ病人のために祈っただけです。とても疲れていて、耐えられないほどです。”

彼女は言いました、“わかっています。” 彼女は言いました、“降りませんか？”

それなら、まだ聞いておられない方のために、もう一度簡単に触れることをお許しくださいますか。

同じことを繰り返すようであっても、どうかご容赦ください。

誇れるような話ではありません。

むしろ、主に対して私がどのように振る舞ってきたかを思えば、恥じるべきことの方が多いのです。

ですから、ここでその一部を振り返るにしても、

この暑さもありますし、細かく語るのではなく、要点だけをお話しようと思えます。

けれど、どうか一つ願いがあります。

私の失敗を、あなたにとってキリストへ近づくための「踏み石」にしてください。

特に、これから人生を歩んでいく若い方々。

まだ前に長い道がある皆さん。

私の間違いを見て、それを真似しようとはしないでください。

そうではなく、こう言ってほしいのです。

「ブラナム兄弟がそこでつまずいたなら、私はそこを越えて進もう。」

もし私の過ちが、あなたを一步でもキリストに近づけるなら、

それだけで私の証しは意味を持つのです。

7 後ろの方、聞こえますか？

やはりそうでしたか…。

このマイクは生きていますかね？

もし使えるなら、後ろに一つ置けるかもしれませんが……スピーカーがなければ前にしか飛びませんね。ああ、残念です。

椅子を前に持って来てください、と言おうかと思いましたが、それも無理ですね。

本当に残念です。

いつの日か、自分で講堂を建てたいものです。

そして「こういうふうにしたい」と言えるような形にして、ぐるりと取り囲むように座席を配置するのです。

そうですね……それがいいかもしれません。ありがとう。

こうして話しているうちに、実は一つ思いが心にあります。

今、主が私を導いておられるのは――

アメリカのどこかに一つの中心地を持つことではないか、と。

そこに私は常にいて、

人々が望むなら、どこからでもその場所に来られるようにする。

そうすれば、私は昼も夜もそこに留まることができます。

(聞き取りづらい部分)

人々の中に御霊が動いているのを見ると、それが聖霊の御心なのかもしれないと思うのです。

ただ――それは今、私の心に浮かんでいる思いにすぎません。

けれど、主がどう導かれるか、見守りたいと思います。

8 さて、今夜ここにいるクリスチャンの皆さんに、こう申し上げたいのです。

今日はここへ来るまでに、ただ二、三度祈っただけで、特別に油注ぎの道に入ろうとはしていませんでした。

というのも、午後は説教するか、あるいは自分の生涯の証しを語るか、そのどちらかになると分かっていたからです。

バクスター兄弟が、その証しを語ってほしいと頼まれましたし、それも良いことだと感じました。

彼女は言いました、“私は言いました、「おはようございます、お父さん。」”

私は言いました、“そうですね、お嬢さん、あなたは私をパパと呼んでいます;あなたは私と同じように年をとっています。”

彼女は言いました、“お父さん、あなたは自分がどこにいるか知らないのね。”

そして私は言いました、“わかりません。”

彼女は言いました。“地上では私はあなたの小さなシャロンでした。”

私は言いました、“シャロン?”

彼女は言いました、“はい、ここには小さな赤ちゃんはいません、パパ、”は言いました、“私たちは皆同じ年齢です;私たちは不死身です。”

そして私は思いました、“ああ、”私は言いました、“どこーお母さんはどこ?”

そして彼女は言いました、“彼女はあなたを待っています。”

そして彼女は言いました、“ビリー ポールはどこですか?”

そして私は言いました、“そうですね、私は少し前に彼と別れたばかりです。”私は言いました、“これは理解できません。”

100 彼女は言いました、“お母さんがあなたの新しい家であなたを待っています。”

そして私は言いました、“新しい家?”私は言いました、“ああ、ハニー、ここに何か問題があります。”私は言いました、“ブランハムは放浪者です;私たちには家がありません、”私は言いました、“私たちはただ貧しいだけです。”

そして彼女は言いました、“でもお父さん、ここに一つありますよ。”

私が振り返ると、そこには大きな宮殿があり、その周囲から神の栄光が溢れ出ていました、と彼女は言いました。“そこはあなたの家です、お父さん。”言った、“ママがそこであなたを待っています。”そして私は振り返って、家に向かって歩き始め、歌いました。“私の家、素敵な家”そこで彼女はまた私に会いに来ました。天国は本当の場所です。彼女は、いつものように美しい存在、腕、輝く黒髪、その目を、再び完璧な健康状態で伸ばしました。彼女は腕を伸ばして

はこう思いました、“はい、そうです、私の罪が彼をそこに置いたのです。ああ、” 私は言いました、“神様。” 我慢できなかつた；妻が行くのは理解できましたが、赤ちゃんは理解できました。私はその赤ちゃんを産むことができませんでした、なぜ神はそれを受け取ったのですか？

私は下を向きました；本当に緊張しました；私はゴム手袋を外し、2300人が私のそばを走っていました。私は言いました、“神様、私は卑怯者になるのは嫌ですが、シャロン、パパは数分後にあなたに会いに帰ってきます。” 私はそのワイヤーに手を置くつもりで手袋を外しました。それはあなたの体のすべての骨を折ることになります。私は自分自身を超えたところででした；私は気が狂っていました。落ち着けなかつた。そして、どうやってそのポールから降りたのか、まだわかりません。しかし、自分のことに戻ると、私はこのようにうずくまってポールのそばに倒れ込み、泣いていました。そして、粘着性の汗の大きな滴が私の周りにありました。もし神があらかじめ決めていなかったら、私はあらかじめ決めていたと信じています。[テープ上の空白部分。] [不明瞭な言葉]。私はそこで死んでいたでしょう。

99 そして私は家に帰りました。その朝辞めた。私は続けました。どうしても我慢できなかつた。母の家に行き、その夜、私は家に帰りました。そして私はドアの横に手を伸ばして郵便物を取り、中に入ると最初に届いた手紙には、「“シャロン・ローズ・ブランナムさん”彼女のクリスマスの貯金は80セントです」と書かれていました。そこでもう一度終わりました。私はキッチンで寝ていた古い軍用ベビーベッドのそばにひざまずきました。寒くなり、床には霜が降りていました。私はひざまずいて言いました。“神様、どうか私を解放してください。私の心を落ち着かせてください。こんな風には耐えられません。”

そして祈りながら泣いている間に、私は眠りにつきました。私は西のどこかにいる夢を見ました。私は大きな西洋の帽子をかぶっていました。そして、口笛を吹きながら草原を横切って下っていきました。“ワゴンの車輪が壊れています。”そしてたまたま見てみると、そこには古いプレーリースクーナーがいて、車輪の1つが壊れてぶら下がっていました。そしてそこに立っていたのは、ブロンドの髪、吹く、青い目をした10代の美しい若い女性でした。私は通りかかり、帽子を脱いで言いました。“おはようございます、奥様。”口笛を吹きながら歩き始めた、“ワゴンの車輪が壊れている。”

彼女は言いました、“おはようございます、お父さん。”

私は周りを見回して言いました、“何て言いましたか？”

そして今、そのことに触れているので言いますが――

もし誰かがこう言うのを聞いたとしても、

「ブランナム兄弟は、もう次の集会を持っていないらしい」

それを、私が後退したとか、信仰を失ったとか、そういうことだとは思わないでください。

私はただ、神の完全な御心を求めているのです。

神の御心には、許容的な御心と、完全な御心があるでしょう？

そうですね、兄弟たち。

そして私は長い間、どこかで「許容的な御心」の中を歩んできたのではないかと感じているのです。

(今の方が聞こえますか?)

完全な御心の中ではなく、許されてはいるけれど最善ではない道を歩んでいたのではないかと――

そう感じることもあるのです。

9 完全な御心と、許容的な御心があります。

そして私はこう感じるのです。

もし神が、この壇上で過去のことを示してくださるなら、

また部屋の中や様々な場面で語ってくださるなら、

神は私に「どこへ行くべきか」「何をすべきか」を告げることもおできになるはずです。

けれど、自分で全部を段取りし、すべてを固めてしまっている間は、

神はそこに御手を置かれたいのではないかと――

自分がやっている限り、主はそれを取り上げられないのではないかと感じるのです。

それは何事にも同じです。

もし誰かがあなたのことを悪く言い、

あなたがそれに言い返すなら、

神はあなたの戦いを戦うことができません。

あなたが自分で戦っているからです。

だから、手放しなさい。

主に任せなさい。

ただ、それを主に委ねるのです。

今日、私が知る限り、クリスチャンにとって最大の武器は――

神への委ねです。

自分ではどうすることもできない時、

それを主に委ねるなら、

神が引き受けてくださいます。

そう信じませんか？

ですから、私が海外に出ている間、もし神の御心なら、

どうか皆さんが私のために祈ってくださることを頼りにしています。

特に――もしエルサレムに入るようになったなら、

どうか、真剣に祈ってください。

10 今、考えてみてください。

あそこには何十万、いや何百万というユダヤ人がいます。

彼らの多くは、イエスがこの地上におられたことさえ、よく知らずに育ってきました。

そして今、何百万冊もの聖書が彼らのもとへ送られ、

によってのみその海岸に到達します。私たちは一人ずつポータルを獲得し、そこで不滅のものと一緒に住むことができます。いつか彼らはあなたと私のために黄金の鐘を鳴らすでしょう。“私は墓から背を向けた。

私は思いました、“ああ、かわいそうなビリー老人が私の腕の上に座り込み、それが何なのか分かりませんでした。私は彼のボトルを手に入れてポケットに入れ、このように梱包して通りを歩きました。戻って。…ある夜、それは私を殺したいと思う。私は彼をこのように腕に抱いて歩かせます；彼は母親のために泣いています；行く母親がいませんでした。そして私はこうやって庭に戻っていたんです、と彼は言いました。「”パパ、ママはどこ？”」

私は言いました、“彼女はイエスに会いに行きました。”

彼は言いました、“彼女が戻ってきたら、私は彼女が欲しいですか？”

私は言いました、“そうですね、ハニー、わかりません。彼女は戻ってくるでしょう。”

私はこのように歩き始め、昔の人たちが置いていた木をひっくり返しました。私はそこに小さな狩猟犬を飼っていました；私はそれを撫でに行くつもりでした。彼は私を見て言いました。“パパ、あの雲の中に母がいるのを見たような気がした。”

ああ、私はその小さな男と一緒に落ちそうになりました。よろめきながら、そのとき落ちました。ああ、どうしても起き上がれなかった。時間が経った、かわいそうな小さな男は、ママのために泣きながらそこに座りました。私は思いました、“神様。…ああ、自分が間違ったことをしたことはわかっていますが、私は..いつかきっと違うでしょう。

98 私は続けて、仕事に行こうとしました。そしてある朝、私は公共サービス会社に行き、列に並んでいたのを覚えています。ある朝、私はポールに登って、とても早く歌っていました。私は歌っていました、

遠くの丘には古くて険しい十字架が立っていた

苦しみと恥の象徴。

私がそこにいる間、たまたま見上げると、太陽がこのように近づいてきて、私の太陽が私に当たって、そのポールのクロスアイアンに輝いていました。そこには、体が動いているように、ポールの側面に影がありました。十字架の丘。私

心からあなたを信じています。“私は言いました、”主よ、私はあなたを信頼しています。“私は言いました、”シャロン・ローズ [不明瞭な言葉] 神様があなたとともにいてくださいますように、ハニー。数分以内に天使たちがあなたの小さな魂を母に詰めてやって来ます。そして、私はここからあなたを迎えに行き、母の腕の中に横たわり、明日あなたを埋葬します。“私は言いました。”主よ、私はできる限りのことをしました。今は私の意志ではありません。あなたの意志を実行させてください。“

私はそのように彼女の小さな頭に手を置きました；私はもう自分自身を抱くことができませんでした。私は自分がこっそりしているのを感じて床に降りていきました。神の天使たちが彼女を選び、彼女の小さな魂を奪いました。彼女の小さな口は震えをやめ、小さな足はまっすぐになりました。神は彼女を連れ去り、私はそこに立ち、心は粉々に砕け散りました。しかし、私は思いました、“神よ、ああ、慈悲よ、” 私は言いました、“主よ、なぜ私を連れて行かないのですか、主よ。ただ一ちよつとさせてください。…” 私は言いました、“私が子供の頃、みんなが私を笑い、弱虫と呼び、私はお腹が空いて、何もせずに過ごしました、そして他のすべて” 私は言いました、“ここでそれはあなたが私に少し家を与えてくれる場所に出てきます、そして私は正しく生きようと思いました。Then You give me a little home; don't take it away from me. それからあなたは私に少し家を与えます；それを私から奪わないでください。神様、私も彼らと一緒に行かせてください。” 私は言いました、“もうここに居させないでください。ここに居たくないのです。”

私は泣きながら[不明瞭な言葉]こう言いました。“しかし、神様、私の心の中には、あなたが何をしたとしても、私はあなたを愛しているという何かがあります。” 私は彼のところへ手を上げます。

97 看護師が入ってきて、赤ちゃんを見て、小さな手を組みました。彼女は私を迎えに来て、出かけました。数日後、私たちは彼女を丘の上に連れて行きました。そこに立って葬儀を説教しているメソジストの説教者、スミス兄弟です。彼らが母親と一緒に彼女を下ろしに行ったとき、私は彼女を見ました。彼は手に土の塊をいくつか持っていて、歩き回って私を見て、頭を向けました。彼はただ…ああ、どうしても我慢できなかった。ここで生後18か月の小さなビリー・ポールが私の腕にもたれかかっていた。私は言いました、“ビリー、ハニー、いつかあなたと私はママとシシーに会いに行きます。” 彼が棺の上に土塊を投げて、「“灰は灰に、塵は塵に、地は地に」と言っているのが聞こえました ああ、小さなカエデの木々の間から降りてくるようで、風が吹き始め、こう言いました。” 川の向こうには、永遠に甘いものと呼ばれる土地があります。私たちは信仰の布告

彼らはそれを読みながら、こう言うのです。

「預言者のしるしを見せてほしい。

それを見たなら、私たちは彼をメシヤとして受け入れよう。」

ああ……

それこそ私たちが願っていることではありませんか。

もし神が、よみがえられたキリストの御臨在を、あのユダヤ人の中に現してくださり、

聖霊が彼らに働きかけ、

彼らがかつて住んでいた国々での出来事や、彼ら自身のことを示されるなら——

そのとき、私は彼らが

イエスをメシヤとして、

彼らの贖い主として受け入れることを願っています。

それこそが、飢え渴いているユダヤの人々を引き寄せる鍵になる——

私はそう信じているのです。

11 今日、主の来臨が近いことを示す最大のしるしの一つは——

世界中からユダヤ人が帰還していることです。

なんと素晴らしいことでしょう。

昔、私はよくこんな歌を歌いました。

「国々は崩れ、イスラエルは目覚める。

聖書が予告したしるしが現れている。」

いちじくの木が芽を出すことについての歌でした。

さて、四、五年ほど前のことですが、ある無神論者と話をしました。

彼はこう言ったのです。

「いいか、牧師さん。あなたが“イエス・キリスト”と呼ぶその方が、間違っただけを言ったと、聖書で証明してみせる。」

私は言いました。

「いや、それはない。」

彼は言いました。

「いや、ある。聖書で証明できる。」

そしてマタイ24章を指して、こう言いました。

「ここでイエスは、『これらすべてのことが起こるとき、その時代は過ぎ去らないうちに、すべてが成就する』と言っている。

だが、その世代はもうとっくに死んでしまったじゃないか。」

私は答えました。

「それこそ、主が言われた通りなのだ。」

彼は言いました。

「だが、その世代はとっくにいなくなった。」

私は言いました。

「いや、そうではない。

主が言われたのは、“いちじくの木が芽を出すのを見る世代”のことだ。」

主は“その場で聞いていた人々”に語られたのではなく、

“それを見る世代”について語られたのです。

いちじくの木が芽を出すのを見る世代――

その世代は、すべてが成就するまでは過ぎ去らない、と。

つまり、主が指しておられたのは、

95 彼女が背を向けたとき、私はとにかく滑り回って地下室に行きました。そこは孤立した場所で、とても安い病院のような場所でした。そして、ハエを寄せ付けないために、彼女の顔の上に小さなチーズクロスが敷かれていました。そして、その髄膜炎で彼女が患っていた小さなけいれんには[不明瞭な言葉]がありました。そして、ハエは彼女の小さな赤ちゃんの目にいたので、私はハエを彼女の目からそのように追い払い、彼女を見下ろして言いました、“シャロン ローズ、ハニー、あなたはパパから離れるつもりはありませんよね？”そして私は、彼女が震えながら絵を描いているときに、彼女の小さな古い太った足、小さな不自由な手をこのように[不明瞭な言葉]で見ました。そして彼女は私を見て、小さな古い唇が震えて、私は言いました、“シャロン、パパと別れるつもりですか？”

そして、彼女はそのように震えているように見えました、そして私はそうでした。。彼女は私を見上げました。小さな赤ちゃんの目が見えるまで、彼女はとても苦しんでいました。..彼女の小さな目はそのように交差していました。彼女の苦しみを見て、彼女は私に小さな手を伸ばそうとしているように見えました。ああ、それは私の心を引き裂いただけです。ああ、そして私は思いました、“ああ、神様。”その日から……それが理由です、斜視の子供たち、ああ、私は彼らを見るのが耐えられないのです。ご存知のように、神はそれらのことを行います；時々、神はそこから良いものを得るために何かを打ち砕かなければなりません、そうではありませんか？

96 私はその小さなものを見て、床にひざまずいて言いました。“ああ、神様、こんなことをしてしまっておめんなさい。”私は言いました、“あなたは私の妻、最愛の人を私から奪いました、今あなたは私の赤ちゃんを連れて行きます。ああ神様、どうか私の娘を連れて行かないでください。私は心から彼女を愛しています。”私は言いました、“私はあなたに仕えます；あなたが私にそこに行くように言ったとき以外、私は私が知っていることをすべてしました。”そして私は言いました、“私の赤ちゃんを連れて行かないでください。”私は言いました、“私は彼女を愛しています。ああ、いいえ、神様に教えてください。”私は言いました、“彼女の代わりに私を連れて行ってください。”

目を上げると、黒いシートが展開しているように見えました。その時彼女が行くことはわかっていました。私は立ち上がって彼女を見て言いました。“神のご加護がありますように、ハニー。”私は言いました、“あなたはパパのダーリンです。”私は彼女の頭に手を置いて言いました、“ああ、神様、”私は言いました、“なぜあなたが私をこのように引き裂いているのかわかりません。”しかし私は言いました、「それでもあなたに対する私の信仰は変わりません。」“そして私は言いました、“昔のヨブのように、あなたは私を殺しましたが、それでも私は

ました、ドアの後ろにはぶら下がっていました。そして、ああ、また同じことが起こりました。そして私がそこに横たわって泣いている間に、誰かがドアをノックしました、それはブレイ氏でした。彼は来て、「“ビリー兄弟」と言いました。”

言った、“はい、先生。”

彼は言いました。“悪い知らせがあります。”

私は言いました、“フランク兄弟、彼女を遺体安置所に連れて行きました。”

彼は言いました。“それだけではありません。あなたの赤ちゃんも死にかけていますよ、シャロン・ローズ。”

私は言いました、“確かにそうではありません。”

“アデア医師が彼女を病院に連れて行きます。” “彼は彼女が死にかけていると思っている。”

94 そしてもうそれを保持することができませんでした。私は立ち上がって、歩こうとした；私はそれができなかつた。私の力はすべて消え去った。彼らは私の腕をつかんでいました。彼は私を古いトラックに乗せて、病院に連れて行ってくれました。そして私が入ると、サムがドアの前に立っていました。彼は言いました。““ビリー、彼女のところへ行かないで。”” 言った、“彼女は死にかけている、坊や。” “彼女は母親からこの結核性髄膜炎に感染し、脊椎にまで広がりました。” そして言いました、“彼女は死にかけています。” “彼女に会いに行くことはできません” と言いました、“ビリー・ポールのせいで”

私は言いました、“先生、赤ちゃんに会えたんです。” そして私は言いました、“彼女に会わせてください、そうしませんか、博士？”

彼は言いました、“ビル、ビリー・ポールのせいでそれはできない、” 言いました、“髄膜炎だよ、息子よ、” 言いました、“服をどこか別の場所に持ち歩いているなら…”

私は言いました。“先生、私をそこに行かせてください、さもなければクロロホルムを渡して彼女と一緒に死なせてください。” 私は言いました、““人生、今の私にとってそれは何ですか？” 私が持っているものはすべてなくなってしまう。” そして彼は泣き始めました。私は… すると看護師はそこに立って言いました、““さて、あなたをそこに入れることはできません、ブランナム兄弟”。

今そのしるしを見る世代なのです。

12 私は信じています——

今ここにいる皆さんは、主の再臨を待ち望んでいる方々だと。

そして私は、今まさにその来臨の影の中に私たちは立っている、と信じています。

本当に、何と栄光に満ちた時代でしょう。

ある祝福された日、主は東の空を突き破って現れ、

御自分の教会を迎えに来られるのです。

今日こうして、恵みによって皆さんと共に数えられていることを、私は本当に嬉しく思います。

皆さんはそこへ行くと、私は信じています。

そして、その同じ恵みによって、私も皆さんと共に行かせていただけると信じています。

その時には、語る時間はいくらでもありますね。

永遠に、です。

さて、できるだけ急ぎます。

話し過ぎないように、時計をここに置いておきます。

少し始めるのが遅れてしまいましたから。

私はいつも少し遅れるのです。

なぜなら、何事も急ぎたくないからです。

でも今日の問題は、私たちがあまりにも急ぎ過ぎていることです。

私が結婚した時も、式に遅れました。

すると誰かが言いました。

「あなたは葬式にも遅れるだろうね。」

私は言いました。

「そうであればいいね。」

(笑)

13 ある時、保険を売ろうとする人がいましてね。

私は保険に反対しているわけではありませんが、アメリカ人の中には「保険貧乏」になっている人も多いと思うんです。

その人が言いました。

「あなたは保険に全然入っていないでしょう。」

私は言いました。

「いいえ、入っていますよ。」

彼は驚いて、

「失礼しました、ビリー。保険に入っているとは知りませんでした。」

「ええ、入っています。」

「どんな保険ですか？」

私は言いました。

「“Blessed assurance, Jesus is mine…”

『確かな保証、イエスは私のもの』ですよ。」

彼は少し立ち止まって、周りに人がいる中でこう言いました。

「でもビリー、それではこの墓地には入れませんよ。」

私は答えました。

「入ることは分かっています。でも出られるんです。

私は入ることを心配していない。出ることなんです。」

そうでしょう？

何でも信じます。私はクリスチャンが死ぬとは信じていません；聖書にはそのための聖書はありません。いいえ 先生。“わたしの言葉を聞き、わたしを遣わした方を信じる者は、死から生へと移ったのです。… わたしは復活であり命である。” 神は言われる、“わたしを信じる者は、たとえ死んでいたとしても、生き続けるであろう。そして、わたしを生き、信じる者は決して死ぬことはない。” そうだね。

私は言いました、“さあ、ハニー、あなたの遺体をここへ運び出して、ウォルナットリッジに埋めてあげるわ。そして、もしイエスが遅刻したら、私はどこかの戦場にいるでしょう、そうでなければ、私はあなたのそばに埋葬されるでしょう。” 私は言いました、“その朝、太陽が輝かないと、月は血のように黒くなります。” 私は言いました、“世界はすべて寒くて待っています。” 私は言いました、“私の前に行けば城門に行ってください。” 私は言いました、“あなたは東側の城門に行き、そこに立って、アブラハム、イサク、ヤコブ、彼らが入ってくるのを見たら。” 私は言いました、“できるだけ大声で「ビル」と叫びに行きましょう。” そして私は言いました、“子供たちを集めて、ゲートで会いましょう。”

そして彼女は骨ばった手を上げてその周りに抱きつきました。私は彼女に別れのキスをした。彼女は目を閉じて神に会いに出かけました。それが妻との最後のデートでした。そして神の恵みによって、私は二重の時間を稼ぐために最善を尽くしています；それが、私が次から次へとキャンペーンで昼も夜も説教しようと一生懸命努力している理由です；私はそこで失ったものを埋め合わせようとしています。

93 ああ、家に帰ったとき大変でした。私は家に帰って寝ようと思いました。母は私に家に帰ってきてほしかったのですが、できませんでした。そして、思い出したのは、私たちの小さな古い場所に行ったことです。そこには何もなかったし、私たちにも何もなかった。たぶん、10ドルあれば家にあるものはすべて買えたでしょう。でも、それは私たちのものでした。彼女はそれを清潔に保ちました；そしてそれは私たちのものでした；そして家のような場所はありませんでした。どんなに謙虚でも、家ほど素晴らしい場所はありません。母の家は、他のどこにも、正しくないようです。

そして私はそこに行き、横になり、その夜眠ろうとしました。決して忘れない。そして、小さな年老いたネズミが—a格子に落ちてきて、そこに書類がいくつかあったと聞きました。そして—彼女はそこに横たわってキャンディーを食べていました。そして、私は手のように聞こえます。。そして私は泣きました。そして私は一緒にドアを閉めました、そしてドアの後ろには彼女の着物がぶら下がって

た；私は言いました、“それだけなら2 足ください。”それで彼女は私にそれらを2足くれました。それで私は家に帰りました。お買い得品を手に入れたら、どうやって妻に鳴かなければならないか知っていますか。そして私は言いました、“ああ、言っておこうと思ったのですが、それは一ただ一ただ一ただ..” 私は言いました、“私はアブラハムの息子です、” ご存知のように、彼女のところへ行きました。私は言いました、「あなたたち女性はバーゲン品を求めて一日中リボンショップに行きます、そして私はダウンタウンに行き、靴下を2足買います、もし私が望めば3足目を買うのに十分な残りがあります。」お金が残っていたので、2足だけでした。皆さんはルイビルで買い物をします。”私は言いました、“ただ、あなたも私と同じようにイディッシュ語でなければなりません、ご存知でしょう。”ただそんなふうになっているだけです。

そして彼女は言いました、“レーヨンは手に入れましたか？”

そして私は言いました、“はい、奥様！”私にはどれも同じように聞こえます。

91 それで、彼女がフォートウェインに着いたとき、彼女は別のストッキングを買わなければならなかったのは何か面白いことだと思いました。しかし、彼女は私に言いました；彼女は言いました、彼女の死に際して；彼女は言いました、“ビル、それらは年上の女性のためのものでした；私はあなたのお母さんにそれらを与えます。”彼女は言いました、“それは、”彼女は言いました、“私はあなたにそれを隠しました、なぜなら私はあなたの気持ちを傷つきたくなかったからです、あなたが得たもの。”

ああ、あの時私がどう感じたか、あなたには分からないでしょうね。そして私は言いました、“あなたの心を祝福してください、ハニー。”

そして彼女は言いました、“さあ、約束してください、そうしないでしょう..”

私は言いました、“私はしません..”

彼女は顔を上げて言いました、“行きます、ビル。”

そして私は言いました、“あなたは、ハニー？”

彼女は言いました、“はい。”

私は言いました、“恋人、あなたが行くとき..”

92 さて、私たちは信じません。… 何でも。… あなたは自分が信じたいものは

問題は“入ること”ではなく、“出ること”です。

ですから今日、聖霊こそが神の保険代理人です。

受け取る者には、誰にでも“証書”を与えてくださる。

もしまだ救われておらず、主イエスの恵みを知らないなら、

今日、受け入れてください。

「わたしの言葉を聞いて、わたしを遣わされた方を信じる者は、すでに死から命へと移っており、裁きにあうことがない。」

なんと素晴らしい約束でしょう。

そう思いませんか？

(マイクの大きな雑音)

これはずいぶん大きな音ですね。

14 それでは、聖書を読みたいと思います。

私は、聖書朗読なしの集会は完全ではないと思っています。

ここに、今ご自宅を離れておられる方はどれくらいいますか？手を挙げてください。

おお……たくさんいらっしゃいますね。

やはり、「我が家にまさる場所はない」と言いますね。

どれほど質素であっても、家は特別な場所です。

そこで今日の午後は、「家」についてお話ししたいと思います。

かつて私が持っていた家、今持っている家、

そして、これから向かう家について。

家は、エデンの園で神によって定められました。

それでは、ヘブル人への手紙13章10節からお読みします。

ヘブル人への手紙 13:10-14

私たちには一つの祭壇がある。

幕屋に仕える者たちは、それから食べる権利がない。

なぜなら、罪のために大祭司によって聖所に血が携えられる獣のからだは、宿営の外で焼かれるからである。

それゆえイエスも、ご自分の血によって民を聖めるために、門の外で苦しみを受けられた。

だから私たちは、宿営の外に出て、彼の辱めを担い、みもとに行こうではないか。

ここには、私たちの永遠に続く都はない。

私たちは来るべき都を求めているのである。

15 それでは、しばらく頭を垂れましょう。

祝福された救い主よ、

私たちがあの幸いな岸辺にたどり着くまで導いてください。

そこでは御使いたちが待ち、永遠に主をほめたたえるために私たちと合流します――

詩人がそう歌いました。

主よ、私たちは今日あなたを愛しております。

そして、この地上で真に価値ある歩みをした人々は、

皆あなたを信頼した人々であったことを知っています。

あなたは詩人の心を震わせ、

教会に語りかけ、

疲れた者を喜ばせ、

失われた者を救い、

そして彼女は言いました。“こんにちは、ビル兄弟。” 言った、“何が欲しいの?”

そして私は言いました、“ホープは靴下が欲しいです。”

そして彼女は言いました、“なんと、ホープは靴下を欲しくないのです。”

そして私は言いました、“はい、彼女はそうです、彼女はペアを望んでいます。”

“彼女は靴下を履かないだろう”と言いました

私は言いました、“彼女はそうします;彼女はそれらをフルスタイルで望んでいます。あの、あの、あの、あの小さなものが後ろにあるんです。そして、” 私は言いました、“彼女はそれをフルスタイルで望んでいます。”

そして彼女は言いました。...

90 まあ、それは間違っています;それはいっぱいではありません。。何だよそれ?ファッション。ええ、そうです。私は彼らのことについてあまり知らないので、こう言いました。“彼女はそういうことを望んでいます。”

そして彼女は言いました、“そうですね、ストッキングです。”

そして私は言いました、“ああ、わかりました。”

言った、“どんな種類が欲しいですか?”

そして、私があまりにも無知だった後、それをもっと見せるのが嫌だったので、私は言いました、“さて、あなたはどんな種類を持っていますか?”

彼女は言いました。“レーヨンからどこかへ行きました。”

私は言いました、“それが彼女が望んでいることです。” 私は2つの異なる種類を聞いたことはありません;それらはすべて私に同じように聞こえます。それで私は言いました、“それが私が望む種類です。”

彼女は言いました、“レーヨンストックが欲しいといいのですが..”

私は言いました、“はい、奥様。”

そして、価格は1足あたり約20セント程度です。彼女はそれを理解しまし

そして私は言いました、“わかりません。”

言った、“私たちはフォートウェインに行くつもりだった。”

私は言いました、“はい。”

彼女は言いました。“それは間違った種類のストッキングでした。”

88 それは何だったのか；彼女はお風呂に入っていて、私たちはフォートウェインに行くつもりでした。当時、彼女の父親はフォートウェインに住んでいて、私たちはそこに行く予定でした。そして私は、ご存知のとおり、レディガー・タバナクルがある場所にて、ちょうど礼拝をしていました。バート・ウィリアムズは当時そこで説教していました。そして私たちはその夜そこに行くつもりでした。そして彼女は言いました。“降りてストッキングを一足買ってきてください。”

そして、私は女性向けの服をデザインしたことはありません、そして私は... 彼女は私にストッキングを買うのにかかる費用である約60セントか70セントをくれました。そして私は行きました。... 彼女は... 2 つまたは 3 つの異なる種類があり、1 つはシフォンと呼ばれます。それは何ですか？そうか？そして次のものは、レーヨンという別のものと呼ばれますよね？レイロン、そうだね。どちらが一番良いですか？シフォンですよ、あのシフォン？そして私は... それは彼女が望んでいた親切だ。

89 通りを下っていた。ほら、覚えていたら、私は言いました、“シフォン、シフォン、シフォン、シフォン、シフォン。”

誰かが言いました、“こんにちは、ベリー。”

私は言いました、“こんにちは、シフォン、シフォン、シフォン、シフォン、シフォン、シフォン。”

そして私はオービル・スポンとすれ違った、と彼は言った、“ベリー、” 言った、“その栈橋で、パーチがそんなに長く噛み付いている、” 言った、“ああ、あなた、” 言った、“あなたはそれを見るべきだ。”

そして私は言いました、“案の定、オーヴィル？”

そして彼と話をしたのですが、それが何だったか忘れてしまいました。それで私は下って行きました。10セントショップに靴下があることを知っていました。それで私はそこで働いている女の子を知っていて、そこに行って、「テルマ、上がってきて」と言って、「“こんにちは、テルマ」と言いました

病める者を癒し、

望みなき者に希望を与えてくださいました。

そして、なんとという大いなる約束を私たちに与えてくださったことでしょう。

この地上はただのネガ——影にすぎません。

やがて死という出来事を通して、そのネガはポジへと現像されるのです。

あの恐ろしい“死の酸”を通過する時、

私たちは「知られているとおりに知り」、

顔と顔を合わせてお会いするのです。

主よ、今日ここで、

詩篇を歌い、証しをし、御言葉を読みつつ、

私たちはその備えをしております。

どうか、ここに臨んでください。

もし、まだあなたを知らない方がここにおられるなら、

今日その方があなたの僕となりますように。

どうか私たちを共に祝福し、

聖霊が今、一人ひとりの心をとらえてくださいますように。

愛する神よ、

あの長く、血と涙に染まった道を再び思い返すことを、

私は恐れます。

それを心にたどるとき、胸が痛みます。

しかし同時に、あの賛美が思い出されます。

「驚くばかりの恵みなりき。

かくも卑しき者を救いたもうとは。

われはかつて失われしが、今や見いだされ、

盲目なりしが、今は見るを得たり。」

主よ、今日も助けてください。

聖霊がこの集まりの中に臨み、祝福してくださいますように。

愛する御子、イエスの御名によって祈ります。

アーメン。

16 さて今日は、私の人生の一部についてお話ししたいと思います。

バクスター兄弟はこれまで何度も、また私の本の中でも、

主の御使いが私のもとに来られ、どのように人生を導いてくださったかを話してきました。

けれど今日の午後は、少し違った角度から――

一人の“人間”としての側面からお話ししたいのです。

私の父は、ほとんど教育を受けていない人でした。

おそらく、自分の名前が目の前に書いてあっても読めなかったでしょう。

本当に、まったく教育がなかったのです。

私たちはケンタッキー州の山間部で育ちました。

母の父は学校の教師で、母は比較的きちんとした教育を受けていました。

けれど、もしこの中にあのケンタッキーの辺り、パークスビル周辺をご存じの方がいればお分かりでしょうが――

あそこでは川が増水すると、学校は終わりでした。

多くの子どもたちは、学校ではなくトウモロコシ畑で教育を受けたのです。

“グースネック・ホー”という鍬を持って、雑草を刈り取ることで。

そして私は言いました、“それは約束できません、恋人；私はあなたをととも愛しています。”

彼女は言いました、“誰かが来るでしょう、ビル。” 言った、“それを約束してくださいませんか？”

そして私は言いました、“まあ、それは約束できません。”

彼女は言いました。“約束せずに私を手放さないでください。”

86 彼女は言いました、“別のこと、” 言いました、“ルイビルにいたときのことを覚えていますか、そして狩りに行くためにその小さなライフルを買ったかったのですか？” 私は銃や魚などが大好きで、出かけるときに彼女がこう言いました。“買ったかったあの小さなライフルは、3ドル安かったんですよ。”

そして私は言いました、“はい。” 17ドルくらいかかったと思います。

そして言いました、“最初の支払いを行うお金がありませんでした。”

私は言いました、“それを覚えています。”

彼女は言いました、“ビル、私はあなたのためにそのライフルをととも手に入れたかったのです。” 彼女は言いました、“あなたが私にくれるお小遣いは、” 彼女は言いました、“私は何も買ったことはありませんが、貯金してきました。” “私がいなくなったら、家に帰ったら、あそこの古い折りたたみベッドの下、その紙の上を見てください” と言って、“そこに横たわっているのがわかります”

家に帰ると、そこには約2ドル80セントが横たわっており、彼女はライフルの代金を支払うためにそこに貯金していた。それが私にどんな気持ちを与えたか、あなたには分からないでしょう。彼女は本物の女の子でした。

87 そして彼女は言いました。“もう一つ、私はあなたに謝罪したいと思えます。” 言った、“私は何か間違ったことをしました。”

そして私は言いました、“それは何ですか？”

彼女は言いました、“私はあなたに何かを隠しました。”

そして私は言いました、“それは何ですか、ハニー？”

“ストッキングを買ってくれた時のことを覚えていますか？”

のです。

私は言いました、“はい。”

彼女は言いました。“お母さんの言うことを決して聞くべきではなかった。”

私は言いました、“わかっています。”私は言いました、“あなたのお母さんの言うことを聞くべきではなかったことはわかっています。”私は言いました、“ハニー、いつか埋め合わせをするから、助けてください。”

彼女は言いました。“ビル、もしあなたが神の言われたことを実行していたら、今日は違った結果になっていたかもしれません。”

私は言いました、“そうです、”しかし、言いました、“恋人、あなたは仕方ありませんでした、あなたは心優しくしようとしていました。”私は言いました、“それはわかっています、ハニー。”

85 それで、彼女は言いました、“何か約束してくれますか？”

私は言いました、“それは何ですか？”

私は赤ちゃんになりたくありませんが、ああ、私がキリストに対して何をしたか、私が犯した間違いを考えると。そして私は言いました。…

彼女は言いました、“何か約束してください。”

私は言いました、“それは何ですか？”

彼女は言いました。「“死があなたを自由にするまで、同じ聖霊の福音を宣べ伝えようと約束してください。”」

私は言いました、“約束します。”

そして彼女は言いました。“独身で生きてはいけないという別のことを約束してほしいのです。”

“ああ、”私は言いました、“それは約束できません、ハニー；それは約束できません。”

“私には 2 人の子供がいます”と言って、“柱から柱まで薬を飲ませたくないと言いました。あなたは聖霊の洗礼を受けた良い女の子を見つけ、子供たちのために家を作るために彼女と結婚します。”

私たちは非常に貧しく、

本当に厳しい生活の中で育ちました。

17 私が生まれた小さな丸太小屋は、二部屋しかありませんでした。

最近、その写真を撮って本に載せました。本当に小さなログキャビンです。

父は二十歳前後でケンタッキーを離れました。

その時、私は三歳くらいだったと思います。

そしてインディアナへ移り住みました。

私たちはジェファーソンビルの北東、ユティカ・パイク沿いに住んでいました。

学校もそこ、ユティカ・パイク・スクールに通いました。

その古い校舎の土地は、今も残っています。

あの木も、まだ立っています。

私はあそこを通ると、胸が締めつけられそうになるのです。

少年時代を思い出して。

あの頃のような日々は、二度とありません。

父はもういません。

父は私の腕の中で息を引き取りました。

白髪が私の腕にかかり、

父は私を見上げて、微笑み、

その青い目を閉じて、

神のもとへ旅立っていきました。

もう何年も前のことです。

母は、今も生きています。

もう高齢です。

私が旅に出るたびに、あのやせ細った母は泣き出し、震えながら言います。

「いつか、ビリー。あなたが戻ってくる頃には、母はもういないでしょう。」

私は言うのです。

「でも母さん、門のところで待っていて。

そう長くはないよ。

私もすぐに行くから。」

18 母はいつも、私が飛行機に乗ることを心配しています。

あまり飛んでほしくないのです。

でも今日、皆さんの多くも、少年時代、あるいは子ども時代の思い出があるでしょう。

少しだけ、心を“故郷”へ戻してみませんか。

あの昔の日々に、戻れたらと思いませんか？

ああ……私は、何でも差し出すでしょう。

もし今日、私に百万ドルがあつたら――

それが本当に私のものなら、

すぐに主の働きに捧げます。

あの幕屋を建て、語ってきた働きのために使い、

一銭たりとも自分のためには残さないでしょう。

しかし、もしそのお金が、

この世の楽しみのために使えるものだったとしても――

もし、それを全部差し出して、

もう一度、あの通路を父が歩いてくるのを見られるなら。

と話すのを聞いて行くのを見ました。あなたはそれをしました。私はただ疑問に思っています、友よ；さて、これは教義ではありません；それは単なる考えです。とにかく死がこんなに辛い朝なのかな。

83 数年前、私はここで男性のそばに立っていました。ただ。…彼は長い間クリスチャンで、私に話しかけて、こう言いました。“ビリー…”

私は言いました、“すべて大丈夫ですか、ブレットソーさん？”彼は80歳くらいでした。

“ああ、大丈夫だよ、ビリー。”言った、“私は主にとっても会いたいのです。私の人生はすべて疲れ果てて消えてしまいました。”言った、“彼に会いたい。”彼はそこに立って私に話しかけており、彼の妻もそこにいます。彼は言いました、“お母さん、なぜ、”彼は言いました、“私は何年もあなたに会っていません。”彼は言いました、“ビリー、彼女が見えますか？”

私は言いました、“いいえ。”

彼は言いました、“知っていますか、お母さん？”お母さん、これは…”

ああ、ブレットソーさんは言いました、“ハニー、あなたは…”

言った、“私は我を忘れていないわけではない。”“お姉さん”彼女は何年もいなくなっていました”と言いました。そして、私たちが下るあの素晴らしい時間に、この魂が口から抜かれた歯のように体から生まれていることを神は知っているのだろうか疑問に思います。神は母に、“下ってヨルダンのそばに立ってください；今朝息子がやって来ます。”と言わないのだろうか

そして私たちの目は、自然界から精神世界へと変化していくときに、そこに視覚化され、実際に立っているのが見えます。

84 私は彼女が楽園に入っていると思った；私は言った、“それはどのように見えましたか、ハニー？”

“ああ、とても美しかったよ。”と言いました 彼女は言いました、[テープ上の空白部分。]

“それは何ですか、ハニー？”

彼女は言いました、“急いで戻らなければなりません。”彼女は言いました、“なぜ私が行くのか知っていると思いますか？”ああ、それが私を傷つけた

た、“希望、恋人、一度私に話してください。”私は言いました、“私は心からあなたを愛しています、私はいつもそうしてきました、そしてこれからもそうします。もう一度話してください。”そして私は彼女をそのように揺さぶりました。私は彼女に向かって叫びました、“希望。”そして彼女—彼女の目が開き、天使の目のように死を見つめる大きな目。彼女は私を見て、微笑み始めました；彼女は私に降りるように合図し、そして彼女は言いました、“ああ、なぜ私に電話したのですか？”

私は言いました、“電話しますか？”私は言いました、“なんで、ハニー、私は… 彼女は… 私は間違っただけをしたのでしょうか？”

彼女は言いました、“いいえ、あなたは悪いことをしていません、”彼女は言いました。

ちょうどそのとき、看護師が駆け込んできて、こう言いました。“ブランハム牧師、出てきてください。”

そして彼女は言いました、“こっちへおいで、ヒルダ”それは彼女の友達だったのよ。そして、私が感じたことは次のとおりです。彼女は言いました、“結婚したら私のような夫が生まれることを願っています。”彼は私にとっても優しく、とても理解してくれました。”それがどんな気持ちにさせるか、あなたは知っています。

私は言いました、“いいえ、ハニー、I—I—私はあなたのために私が望むようにすることができなかつたので、おそらく3、4か月に1回彼女に三毛猫のドレスを買うことを考えなければなりません。”私は言いました、“私—あなたは働いて、私が子供たちのために生計を立てるのを助けてくれました。”そして少女は泣き始め、看護師として部屋から出て行きました。私は言いました、“なぜ折り返し電話して私が悪いことをしたと言ったのですか？”

彼女は言いました、“ああ、ビル、”言いました、“あなたはそれについて説教しました、ハニー、そしてあなたはそれについて話しましたが、”言いました、“あなたはそれが何であるかを理解していません。”言った、“私は白い天使のグループに家に連れて帰られていました。”“大きな鳥が木から木へと飛び交う東洋のようで、とても平和でした。”

私は心から信じています；彼女の目はビジョンを見るために開きます；彼女は楽園に行っていました。あなたがこれを信じているかどうかはわかりませんが、私はベッドサイドに立って、聖人たちが何年も前に亡くなった愛する人たちが

そして近づいてきて、

「こんばんは、息子よ」と言って、

また消えていくその姿を見られるなら——

私は一銭残らず差し出します。

きっと皆さんも、天に召されたご両親のためなら、同じことをなさるでしょう。

けれど、あの日々はもう過ぎ去りました。

19 若い皆さん——

お父さんやお母さんがどれほど良い友であるかは、

失ってみて初めて分かるものです。

いなくなってから、本当にその存在の大きさに気づくのです。

今の子どもたちの中には、

「うちの年寄りがさ……」などと言う人もいますが、

どうか、決してそんな言い方をしてはいけません。

あなたはまだ分かっていないのです。

あの方々がどれほどあなたを思い、

あなたにとって何が最善かを知っているかを。

父が棺の中に横たわっているのを見たとき、

五十二歳で、こめかみのあたりが少し灰色に染まっているのを見ました。

私は思いました。

「私のことでどれほど心配しただろう。

あの白髪は、その心配が刻んだものなのだ。」

もう一度その髪を撫でてやりたいと、どれほど願ったことでしょう。

けれど、その時にはもう遅いのです。

だから、将来後悔するようなことを、今してはいけません。

もし今日のことだけを見て生きるなら、

あなたは惨めな人になるでしょう。

終わりを見なさい。

その向こうにあるものを見なさい。

そして、その終わりに向かって生きなさい。

20 私たちが小さな子どもだった頃、丘の上に住んでいました。

家は、半分が板張りで、半分が丸太造りのような、少し奇妙な造りでした。

でも丸太と板でしっかり補強されていて、とても丈夫でした。

私はあの家が、ずっとそこにあり続けるように思っていました。

永遠にそこにあるように。

けれど――

「ここには、永遠に続く都はない。私たちは来たるべき都を求めている。」

トレドに入って、皆さんの美しい家々が並ぶ通りを歩いたとき、

本当に素晴らしいと思いました。

先日、古いトラックを止めて少し見渡しました。

もう十五万マイルも走っていて、かなりくたびれています。

“後退した”のではなく、ただ使い込まれただけです。

小川のそばを走りながら、なんと美しいのだろうと思いました。

立派な家々、まるで楽園に住んでいるかのような人々。

ここは湖の近くの、実に素敵な町です。

きるだけ強く階段を駆け上がりました。そして私は通路を通って降りてきて、かわいそうなアデア老医師に会いました。私はその男を愛しています;彼には私が愛するものがあるだけです。彼は私にとって友達でした。私たちは子供の頃から友達でした。彼は頭を下げて歩いてきて、顔を上げて私を見ると、涙が彼の頬を伝い落ち、横を向いて横に走り始めました、そして私は言いました、“ちょっと待ってください、サム。”私は歩いて行き、「“彼女はいなくなったの?”」と言いました

言った、“そうだと思うよ、ビル。”

私は言いました、“さあ、一緒に行きましょう、相棒。”

彼は言いました。“ああ、ビル、私に行くように頼まないでください。私に行くように頼まないでください。”“私は一そこに入ることはできない、”は言った、“ホープは私のためにたくさんのパイを焼いてくれたし、私たちは一緒に食事をした。”そして言いました、“それは私の妹のビルのようなものです; I—私はできる限りのことをしました。”は言いました、“神は私ができる限りのことをしたことを知っています。”“君のために最善を尽くしたよ、坊や、でも”“彼女はいなくなった”と言った

私は言いました、“ドク、一緒に行けないの?”

言った、“もう我慢できないよ、ビル。”

私は言いました、“行きます。”

彼は言いました、“やめてください。… 待って 看護師を連れて行け。”すると看護師がやって来て、そこに少し古い薬がありました。彼女は言いました。“この薬をちょっと飲んで”“神経が落ち着くよ”

私は言いました、“いいえ、それは望んでいません。”

82 私が一人で部屋に入ると、彼女は言いました。“私も一緒に行きます。”

私は言いました、“いいえ、一人で行きたいです。”私はそのように後ろのドアを引っ張り、そこを歩きました。彼らは彼女の顔にシーツをかぶせていました。私はそのシートを引き戻しました。私がそこに横たわっているのを見ると、そこに私の愛しい人が横たわっていました。彼女を見ると、彼女はこのように描かれていました。彼女の頭に手を置くと、ベタベタしていました。息も見えなかったし、[不明瞭な言葉]も見えなかった。そして私は彼女を揺さぶって言いまし

た、“彼女は今死にかけています。”

私は言いました、“先生、そんなはずはありません。”

彼は言いました、“そうです。”“さて、彼女に知らせないでください。でも、続けてください。アデア医師はそのことを知っていて、私にあなたに伝えるように言いましたが、彼はあなたに言いたくありませんでした。”

そして私は言いました、“わかりました。”

80 そして私は彼女が行くことを知ってそこに戻りました、そしてああ、なんてことだ。.. それで、乾いて彼女を家に連れて帰ってもいいかと医者に見せました？ 私たちは家に帰ります；私たちは彼女の命を救うために人間の力にあるすべてのことを行いました。しかし、私たちにはそれができませんでした。私は彼女に気胸の治療をし、気胸マシンを買いに行きました。町にはそれさえありませんでした。彼女が私の手を握ったとき、私は彼女の指を私の手からこじ開けなければなりません。彼らは彼女の脇腹に穴を開け、肺を潰した。もしまたやり直されるなら、私はそれをしません。そして、彼女はどのように苦しみ、苦しみ続けたのか。

ついにルイビルからミラーという名前の偉大な医師がやって来ました。彼は私を脇に呼び寄せて言いました。“ブランナム牧師、彼女は生きていけないが、もう少しだけ生きられる。彼女は生き続けるのだ。” 言った、“彼女は生きていけない。”

81 さて、思い出したのですが、パトロールに行かなければならなかったので、続けました。。そのとき私は自然保護活動に参加し、狩猟監視員として働きました。そして私は働かなければならませんでした；私はどこでも借金を抱えていました。彼女は病院に横たわって最後の病院を待っていました。そしてある日、起きていて、ラジオで入るように電話しているのが聞こえたのを覚えています。生きている限り、その日を忘れることはないでしょう。私は立ち止まり、ベルトを外し、銃と帽子を横たえました。私は神の前に頭を下げ、教会がなくなったように見えました。すべてが消えてしまった、私はただ—私はすべてアウトだった。私にとって人生は何の意味もありませんでした。そして私は言いました、“天の父よ、もう一度会えるまで彼女を死なせないでください。” 私は家から20マイルほど離れていました。私は言いました。“もう一度彼女に会えるように、彼女を死なせないでください。”

私は電気をつけ、サイレンを鳴らし、道を進み、病院の前で立ち止まり、で

私も住んでみたいと思うほどです。

しかし、友よ——

いつの日か、このトレドも存在しなくなる時が来ます。

その通りです。

いつか、原子爆弾がこの地を打つ日が来るかもしれない。

何も残らない日が来る。

今はそういう時代に生きているのです。

思っているよりも、もっと遅い時代に。

本当に、そうなのです。

21 先日、そのことを思い出していました。

戦争が終わって、ベルギーやその周辺の人々が戻ってきた時のことです。

夜になると、子どもたちが小さなランタンを持って走り回っていました。

ロシア国境付近では、農具で地面を引っかき、耕していました。

きちんと耕すこともできず、ただ地面をかき回す程度です。

なぜなら——

雪が降る前に種をまかなければならなかったからです。

もし雪が降る前に種を入れられなければ、

翌年の収穫はありません。

そして皆が飢えるのです。

だから彼らは、昼も夜も働きました。

ただ地面を引っかいてでも、種をまくために。

牧師である兄弟たちよ、

それは今日、靈的な意味でも同じではないでしょうか。

心の土に、種をまかなければなりません。

昼も夜も、です。

思っているよりも、時は遅れています。

収穫の時は近づいています。

だから、昼も夜も、

この種まきに取り組もうではありませんか。

22 さて、今日の午後、少し心を故郷へ戻してみましよう。

私たちが住んでいたあの小さな家のまわりには、リンゴの木が何本も立っていました。

その木の下で、父はよく体を洗っていました。

私は父を「パパ」と呼んでいました。

本当に小柄でしたが、とても強い人でした。

伐採の仕事をしていて、腕には太い筋肉がありました。

リンゴの木の下に、小さなベンチを置き、その上に洗面器を置いて洗う――

そんな光景を覚えていますか？

割れかけた鏡の破片が置いてあって、それで顔をのぞき込み、

石けんは枝の上に置いてありました。

(皆さん笑っていますね。)

きっと皆さんの中にも、同じような思い出があるでしょう？

私だけが田舎育ちというわけではないはずです。

23 わらのマットレス――ストロー・ティックで寝たことのある人、手を挙げてみてください。

79 そして、友人が私を迎えに来てコロンバスに連れて行ったとき、私がそのバプテスト教会に偶然会ったとき、体育館の部屋は彼らが病気を預ける場所―病人のための講堂―として使用されていました。私がそこに入ると、人々が泣きながらお互いの上を歩いていて、小さな古いベビーベッドが動き回っていました。そして私は叫び始めました；私は必死になりました。そして私は叫び始めます、“ああ、ホープ、恋人はどこにいるの？どこにいるの？”そして私はそこを走っていました、“あなたはどこにいますか？”

そして、ずっと後ろの隅で、私はそれを決して忘れません；私は骨ばった手がそのように立ち上がるのを見ました[テープ上の空白のスポット。]…私の最愛の人が死にかけています。私はすぐに彼女のところへ行きました。私は彼女を見下ろしました。その黒い目は彼女の頭のかなり後ろに沈んでおり、彼女の美しい滑らかな顔は引き込まれていました。そして彼女は私を見ました。そしてああ、我慢できなかった。私はベッドの側面に沈んで、「ああ、神様、憐れんでください」と言いました

そして彼女は言いました、「私はひどい顔をしていますね？」

そして私は言いました、“いいえ、大丈夫です、ハニー。”私は言いました、“ビリー ポールと赤ちゃんはどこですか？”

言った、“彼らは入っています。。誰かが彼らをここの部屋に連れて行きました。”

私は言いました、“彼らは生きていて大丈夫ですか？”

言った、“はい。”

そしてちょうどそのとき、誰かが私の肩を叩いているのを感じました、そしてそれは医師でした、と彼は言いました、“ブランハム牧師？”

そして私は言いました、“はい。”

言った、“あなたはサム アデア博士の友人ではありませんか？”

そして私は言いました、“はい。”

言った、“ちょっとこっちに来て。”私が歩いていくと、彼は言いました。“さて、ブランハム牧師、あなたに衝撃を与えて、あなたに知ってもらいたいのです。”あなたがそれを乗り越えられるよう、“あなたの妻は疾走性結核を発症しました。彼女は生きていけないのですが、ほんの少ししか生きられません。” 言っ

私はボートの中でそのように旋回し、戻ってきて、ケイン・ラン・クリークのそばを抜け出し、ニューアルバニーに向かって下りました。私は再びジェファーソンビルに戻り、歩いて戻りました。私は言いました、“妻に会いに行きます。”

言った、“あなたの奥さんは” 言った、“彼女はどこにいるの?”

私は言いました、“公立病院、そこにあります。”

言った、“そのすべてが流されてしまった。”

77 ああ、それから私はボートとra—または車に飛び乗って、乗っていた小さなパトカーをできるだけ早く走らせ、その政府に出かけました。私は友人のメジャー・ウィークリーに会って、「“メジャー、病院は流されてしまったの?”」と言いました

彼は言いました、“はい、そこはすべて水面下にあります、牧師” 彼は言いました、“しかし、患者は全員退院したと思います。”

私は言いました、“妻がどこにいたか知っていますか?”

言った、“わからない。”

そして、別の人を見に行き、こう言いました。“はい、あなたの妻と残りの全員が牛車に乗り、チャールズタウンに向かいました。”

78 さて、私はチャールズタウンに向かって車を走らせます。ランカサンジ・クリークが逆流し、最も速い水が4マイルありました。私はボートを取りに行きました。私は私を救うためにその流れを突き刺すことができませんでした；それは飛んで戻ってくるでしょう。私はそこで彼らの何人かに会って、チャールズタウンとジェファーソンビルの間でこう言いました“ご存知のように、彼らがあそこの架台を渡ったとき、列車は線路から流されました”。そして、私はそこに到達しようとして、一人でそこに取り残されました。そして、私は数日間そこへ出発し、すべてを考え直す必要がありました。

それから、また渡って渡れるようになったら、チャールズタウンに着きました。そこで彼らは言いました。“妻のことは何も聞いていませんでした。” 私は古い友人に会い、一緒に通りを歩きに行きました。彼は言いました。“そのデイスパッチャーに聞いてみます。”

デイスパッチャーはこう言いました。“ええ、そうです、私はインディアナ州コロンバスで病気の母親と二人の子供を先延ばしにしました。”

おお、たくさんいますね。

それなら私は上着を脱ぎましょう。ここは“家”のようなものですから。

わらのティック、いいですね。

トウモロコシの皮で作った枕(シャック・ピロー)——ああ、本当に懐かしい。

ヒッコリーで燻したハムとソルガムの糖蜜のように、

それこそ“アメリカそのもの”ではありませんか。

本当に素晴らしい思い出です。

脱穀機がやって来て、新しいわらを詰め直した夜のことを、私は忘れません。

あの大きな蒸気式の機械が通り過ぎた後、

新しいわらをティックにぎっしり詰めたのです。

ある晩、私は驚いて飛び起きました。

ベッドの中に何かいると思ったのです。

母が言いました。

「わらの中にバツタが入ったのよ。」

そのバツタが跳ねて、私は何かに捕まえられたのかと思いました。

新しいわらの中に入り込んだバツタだったのです。

でも——

あの“新しい日々”のような日は、もうありませんね。

あの頃の純粹さ、あの素朴な喜び。

本当に、かけがえのないものです。

24 父が食卓を作ってくれた日のことを覚えています。

板を渡し、後ろに長いベンチを据えてくれました。

小さなアイルランド系の子どもたちが、
 テーブルの下を走り回って自分の席へ滑り込み、
 顔を洗い、髪をきれいに撫でつけて――
 まるで皮をむいた玉ねぎみたいに、つるんと光らせていました。
 そして皆、テーブルの後ろにきちんと並ぶのです。
 食事は“ポット・ディナー”。
 大きな鍋に何でもかんでも入れて煮込む、マリガン・シチュー。
 ご存じですか？

皿ふきまで入れているんじゃないかと思うくらい、何でも入れて煮るんです。

それをお玉でよそって、順番に回していく。

フライパンで焼いたコーンブレッド、食べたことありますか？

ああ、なんておいしいのでしょうか。

今、すっかり“家”に帰った気分です。

「hit(it)」とか「hain't(ain't)」とか「carry and fetch」なんて田舎言葉を使っても、

どうか気にしないでくださいね。

今日は故郷の話ですから。

母はコーンブレッドを半分に切って、

皿にのせてくれました。

私は父の隣に座り、

回ってくるたびに自分の分を折って取るのです。

私はいつも“角”の部分を取っていました。

悲を”家がそのように揺れ、洪水が降りてきて、80マイルにわたって押し寄せました。そこには水が流れています。

そして私はボートに乗って路地を進み始めました.. このように、そして私が降りて流れの中でその場所の後ろに落ちることができるようにそれを手に入れました。そして私はその場所に着陸しました;そして女性は気を失っていました;私は彼女を迎えに行き、ボートに乗せました(その夜の11時頃)、2人か3人の小さな女の子でした。戻って銀行に着きました。彼女は自分の頭に戻ると、叫び続けました。“私の赤ちゃん、私の赤ちゃん、ああ、私の赤ちゃんを置いて行かないで。”そして、彼女にはあそこに小さな赤ちゃんがいると思いました。彼女が産んだ赤ちゃんは約2歳でした。そして、私が迎えに行ったときにポーチで気を失った小さな赤ちゃんをベッドか何かに寝かせたままにしておいたかどうかを確認するために戻ってきました。

75 そしてそこに着いてボートを縛り、中に入って家中を見回しました。しかし、彼女が話していた赤ちゃんは2歳の赤ちゃんでした。そしてちょうどその頃、家は基礎から洗い流されました。そして私は急いで飛び出してボートに飛び乗り、手を水中に投げ込み、スリッポット、氷、みぞれ、寒さ、吹く風、吹雪を引っ張りました。そして私はボートに乗り込み、スターターの紐を引こうとしました。始めることができず、流れが私をこの方向に捕らえ、マーケットストリートに連れ出し、川に押し流しました。そのすぐ下にはオハイオ滝が押しつぶされており、ここの建物と同じくらい高い波が、そのような流れでそのように飛び回っています。そして、私はそのボートに立って紐を引いてモーターを始動させようとしたのですが、モーターは始動しませんでした。誰かがこう言うのが聞こえたような気がしました。“さて、そのゴミの束はどこにあるのでしょうか？”

76 兄弟よ、私はあなたに言います、違反者の道は厳しいものです。誰もあなたをゴミと呼ばせないでください、いいえ。私はその紐を引っ張ったのですが、それは始まらなかったの、「ああ、神様、私は間違ったことをしました」と言いました。お願いします、私はこここの川で死にたくない、私の赤ちゃんと妻は病気でそこに横たわっています。神様、どうか私を死なせないでください。”

そして、私はその紐を引っ張っていましたが、それは始まらず、向きを変えると、ボートはほぼその時に半分水で満たされ、滝に向かって進みました。あと10分でも長すぎると、やりすぎだとわかっています。私は再び引っ張りました;私は思いました、“ああ、神よ、私の罪を赦してください。”そしてまた引っ張りました。そして、その時に引っ張ると、モーターがガタガタと音を立てました。もう一度引っ張ると、エンジンが始動しました。

しかし、それから6週間も経たないうちに、スプリングストリート上空で22フィートの水が測定され、まさにその通りになった。

73 そしてそこで、私はこのシートが落ちるのを見て、教会に行きました。私は言いました、“私の不従順が私の心に悲しみをもたらしたと信じています。妻は行くつもりだった。”

そして彼らは言いました、“ああ、”は言いました、“それはあなたの妻に対するあなたの気持ちです。”

彼女は悪化した。洪水が来て、その夜、あの恐ろしい夜を突破しました、ライアン兄弟。人々が通りを歩いたり、泣いたりしていたときのことを覚えていますか。そして、私はそこに小さな古いパトカーを持っていて、それを使って人々を洪水から救い出そうとしていました。そして私は降りていきました、そしてそこには... 私の妻は政府倉庫の臨時病院に移送されていました。他のものはすべて洪水に見舞われていました。そして私は彼女に会いに出かけました；そして私は周りを見回していました。そして私はジョージ・デアーク兄弟に出会いました。彼は今日栄光に輝いています。そして彼は言いました、“私は...” 彼は言いました、“私はちょうどそこでユナイテッド ブレザレン教会のそばであなたを見ました。”

私は言いました、“ライアン兄弟を見たことがありますか？”

彼は言いました。“統一兄弟教会のそばで。”

そしてジョージ兄弟は私の周りに腕を回して言いました。“ビリー兄弟、もし私がもうあなたに会えなくなったら、朝に会います。”

そして、それが私たちの次の出会いの時間です；彼は洪水の時に去りました；今日は栄光の中で。彼が死にかけていたとき、彼は見て、こう言いました。“ああ、ビル兄弟にもう一度会えたら。ああ、彼がここにいられたら。” 彼は言いました、“ああ、どこにいるの？” 彼は窓を見て言いました。“ああ、イエス様、あなたが来ると分かっていました。” 腕を投げ出して神に会いに行きました。

74 それから私は下っていきました。この洪水は、上のチェスナット ストリートの堤防を突破する準備ができていました。そして、彼らの何人かが私に電話してこう言いました。“急いでそこへ来てください。” 私は川で育ち、かなり優秀な船頭だと思っていました。私はすぐにボートをそこに降ろしました。彼らは言いました、“女性がそこに閉じ込められています。” そして私が外を見ると、ポーチの上に立って赤ん坊を抱いた女性が叫んでいるのが聞こえました。“慈悲を、慈

皮が多くて、それが好きだったからです。

豆のスープと一緒に食べるのが最高でした。

大きなボウルいっぱいのだんごスープ、

あれくらい大きな玉ねぎのかけら、

コーンブレッド、

そして泉で冷やしたバターミルクを大きなグラスで――

今この午後にそれがあつたら、どうです？

ああ……それはもう、たまりませんね。

私たちは泉へ下りていき、

水が古い缶の上を流れ落ちるその冷たいバターミルクを汲んだものです。

本当に、あれは素晴らしかったのです。

25 そして、夕食の時間になると、

家族みんなが父を囲んでテーブルに集まりました。

あの頃は、本当に素晴らしい日々でした。

今この午後、もう一度あの席に座れたらと、心から思います。

土曜の夜になると、町へ買い出しに行ったのを覚えています。

皆さんも覚えておられますか？

古いジャージーの荷馬車に、父が後ろにわらを敷き、

子どもたちはそこに乗り込みました。

父と母は前に座り、

小さなラバを引いて、七マイルほど先の町まで行ったのです。

父の稼ぎは一日七十五セントほどでした。

そのお金で一週間分の食料を買いました。
 買い物を済ませ、食料品店のグロワーさんに代金を払うと、
 彼は小さな紙袋にキャンディーを入れてくれました。
 棒付きのペパーミントキャンディー。

ああ、それは本当においしかったのです。
 あの小さな袋は、私たちにとって宝物でした。
 わずかなものでも、
 喜びは大きかったのです。

26 問題はこうでした。

小さなブラナム兄弟たちが八人ほどいて、
 もらったキャンディーは六本くらい。
 八つのアイルランドの小さな目が、
 どうやって公平に分けられるかをじっと見つめていました。
 寒い夜、毛布にくるまって座り、
 みんなそれぞれのキャンディーを食べ始めるのです。
 でも私は、ちょっとした“作戦”を考えました。
 (子どもたちよ、真似しないように。うまくいくとは限りませんからね。)
 私は食べているふりをして、
 そっと包み紙を少し取り、
 キャンディーを包み直してポケットに入れておきました。
 そして月曜日まで取っておくのです。
 母が言います。

こに出かけていました。そして、あなたはそのボートに乗り、そのボートに立って川を下り、防潮堤で人々に説教するでしょう。それから川を遡り、洪水壁で人々に説教しながら川を下って戻ってきます。ライアン兄弟、最後にそこであなたに会ったときのことを覚えています。数週間、数か月前、あなたはもうここにいなくなって永遠にいると思っていました。彼がどうなったのか全く分かりませんでした。

71 そして、ジョージ兄さん、夜が来ました。クリスマスのちょうど前日だったのを覚えています。妻は子供たちにクリスマスプレゼントを買うために川を渡りました。その間、さらに1年が経ち、1年ちょっと、約1年11か月が経ちました。二人の子供の間には11か月が経ち、小さな女の子が生まれました。私は彼女を聖書にちなんでシャロン・ローズ、シャロンのバラと呼びました。一番可愛い子、彼女はちょうどいい大きさになって、ついにはぐっすり眠れるようになった。そして、とても可愛かった。そして私は小さな子供たちが大好きです。

72 そして、洪水が起こり、彼女がクリスマスに子供たちに物を取りに川を渡ったのを覚えています。私は仕事をしていました。そして家に帰ると、彼女は路上で気を失い、彼らは彼女を連れてきました。そして私は急いで入ってきて彼女を見て、そして私は... 私の小さな友人、ジェファーソンビルのサム・アデア医師は、世界最高の医師の一人だと思います。私たちは一緒に教育を受け、一緒に友達になり、一緒に釣りをしました。私たちは一緒に走り回りました。今、隣人を生きてください。そして彼は... 私は彼に電話しました; 私は彼をそのうちの1つ—クリスマスのランプ、クリスマスプレゼントとして降ろしたばかりでした。それはクリスマスの前日の夜でした。そして私は彼に電話して言いました、“サム、ホープは気を失いました。”そして私は言いました...

彼は言いました、“すぐ行きますよ、ビル。”

彼は近づいてきて言いました。“ああ、彼女は15度の熱を出した。肺炎だ。”そして言いました、“ビル、あなたは一晩中起きて、彼女に水分を飲ませなければなりません。”

まあ、そうしました。そしてその夜、私はひざまずいて祈り始め、神が彼女を助けてくださるよう祈りました。そして、私がそうしたとき、私は祈っていました。黒いシートが私の前に降りてくるのを見ました。私は1937年の洪水が上昇し、22フィートがスプリングストリートを超えて預言を始めるのを見ました。人々は言いました、“あなたは気が狂っています; あなたは頭がおかしいです。”私がそれをフォールズシティ・トランスファー・カンパニーに渡したとき、彼らはこう言いました。“ああ、ビリー、家に帰りなさい。”

っていました。ヒッチハイク中に彼を抱き上げ、酒を飲み、柱の側面に頭を打ち、首を骨折し、肝臓をひっくり返し、他の兄弟の腕の中で死亡した男。そしてそれが起こったとき、私は壇上に立って説教していました。彼らは来て私に言いました。言っておきますが、違反者の道は困難です。世界中の誰かがあなたに言うことに注意を払わないでください。あなたは神が言うことを実行します、それが何であれ.. だとしても構わない。…

少し前に一人の人が私のところに来てこう言いました。“ブランナム兄弟、私は『主はこう言われる』と言っています。主はあなたにこれをやめて、あれをやめてほしいと願っておられるのを私は知っています。”

私は言いました。“さて、兄弟よ、私はあなたを心から愛しているが、そんなことで私のところに来ないでください。” 私は言いました、“それは聖書的ではないからです。”

彼女は言いました。“でも私も預言者です。”

私は言いました、“神様なら。… 私は神と話し合っています。もし神が私に何かを知ってもらいたいなら、神は私に教えてくれるでしょう。” そうだね。私は言いました、“そうですね、預言者が 2 人—2 人いた時期がありました。そのうちの1人が下って行き、彼は若い預言者で、代替に対して預言しました。列王記上 13 章だと思いますが、彼は祭壇に向かって預言し、麻痺した王の腕を癒しました。そして、主が彼に何か別のことをするように言われた後、別の預言者が言いました”主はあなたが私の道に来るように言われました“。そして二人の預言者、覚えていますか？それが誰であろうと、誰であろうと、神があなたに何かをするように言ったとき、あなたは神の言うことを実行します。他のすべてを手放してください(わかりますか?);あなたはただ神を気にしてください。

70 そして同情と感情が湧き上がりました。私は言いました。“まあ、ハニー、私たちはただ放っておいて、それから先に進んで..” 彼女は言いました。“ビル、私はあなたと一緒にいきます。あなたがしたいことは何でもします。”

私は言いました。“まあ、私たちはそれを手放して、教会の費用を一私たちが一払い終えて、しばらくすれば一私たちは行けるようになるかもしれません。” そして悲しみが次々と起こり、困難が次々と起こり、すべてが起こります。

さて、覚えておいてください、そしてすぐに 1937 年の洪水が発生しました。当時、哀れなライオン兄が街にいたこと、洪水が近づいていたこと、そして壁の作業員たちを覚えています。私はそこに古いボートを持っていて、よくそ

「ウィリアム。」

「はい、母さん。」

「泉に行って水を汲んできなさい。」

大きな杉のバケツと、ひょうたんのひしゃく。

泉まで行くのは重労働でした。

そこで私は弟エドワード、あだ名は“ハンピー”に言うのです。

「こうしよう。」

このキャンディーを十数える間なめさせてあげるから、

代わりに水を汲んできてくれないか？」

(笑)

おかげで月曜日の仕事はほとんどありませんでした。

キャンディーが続く限り、私は“実業家”でした。

「いくぞ、一、二、三……」

「早すぎるよ!」

「二、三……」

「今度は早すぎる!」

また最初から数え直して、

その間に弟はもう何回かなめる。

それからまた包み直して、

次の“交渉”の時まで取っておく。

月曜日は楽でした。

私は“のんびりした紳士”でした。

ああ、あの頃に戻れたら。

あのキャンディーは、本当においしかった。

今、箱いっぱいのチョコレートを買えたとしても、

あの味にはかなわないでしょう。

あれは、特別な甘さでした。

27 塩味の大きなバレル・クラッカーに、ペパーミント・キャンディーをのせて食べたことありますか？

それにブラウンシュガーをつけたことは？

ああ……あれは格別でした。

実は私が人生で二度目に——いや、ほとんど唯一と言っていい——盗んだものがあります。

それは父のブラウンシュガーをひと握り。

朝食用にモラセス(糖蜜)を作るため、箱に入れてあったのです。

ブラウンシュガーのモラセス、食べたことありますか？

ああ、今すぐ誰かの家へ行って夕食をいただきたいくらいです。

兄が言いました。

「お前が砂糖を取ってくるなら、俺がクラッカーを持ってくる。」

「よし、分かった。」

父と母は庭で鍬を振るっていました。

私は中へ入り、二人分たっぷりの砂糖を握って出てきました。

でもね、嘘をついている時って、まっすぐ歩けないものです。

庭の端を通って、こそこそと歩いていたら——

父が振り向いて言いました。

す、そして言いました、“彼らは今日、ここインディアナ州とその周辺のこれらの教会でそこから逃れています。”

そして、私たちもそうするのは残念です。そうだね。言っておきますが、あなたが握手して紙に自分の名前を載せた、この種のバプテストが今私たちが持っているものです。それは私が理解した方法ではありません、兄弟。私たちは祭壇に降りて、通り抜けるまでお互いの背中を殴り合いました。そこから出てくると何か手に入れました。はい、先生、それは説教者と握手していませんでした；私たちは救われました。

68 そして、私たちが話し始めたとき、彼女の母親がこう言ったのを覚えています。“まあ、ホープ、”彼女はこう言いました。“もちろん、行ってもいいよ、そう言われてるけど、言っておくけど、”“そうすれば、あなたのお母さんは墓を傷つけた心で満たすでしょう。”

ああ、私の。そこだった。そして、ここで私は間違いを犯しました、友人たち。私は神の言うことを聞く代わりに義母の言うことを聞きました。もし私がその時進んでいたら、この素晴らしいことはこれより前に現れ、教会はさらに前進していたでしょう。しかし、私の間違いを聞いてください；ここで悲しみが始まりました。

ホープは言いました、“とにかく行きます。”

私は彼女の母親の気持ちを傷つけないで、そして彼女の母親は言った、「給料が支払われるまで教会に行つて、牧師館に行つて、誰かが何らかの感覚を持っているかのように振る舞ってみませんか。[不明瞭な言葉]の代わりに。娘を国中で麻薬漬けにさせて、今日は食べて、明日は食べないと思えますか？そして、彼女の背中に着替えを決して着ないで、”そして言いました、“そして、そのゴミの束で麻薬をやり回してください。”

そして私はそれを知りました、そして私はこれを言いませんが、真実を話すためだけです。彼女がゴミと呼んだものは、私にとって最高のものだと思います。まさにそれが真実です。そうだね。

言った、“娘はそんな風に麻薬をやっている。…”

兄さん、私のミスで、その後少し彼女を埋葬しなければなりませんでした。

69 さて、私は決して忘れません；トラブルはいつ始まったのか。父は病気になり、その後少しだけ私の腕で亡くなりました。私の兄は15歳で車の側面に乗

66 そして、ある女性がやって来て、どこかでインディアンに教えていました。そして最初に知っていること。私はそのように招待状を書き始め、紙の裏側に招待状が一行に並んでいました。そして私は古いフォードに飛び乗り、道を進みました、ああ、ああ。そして私は家に走って帰ります。… 入ったとき。… 彼女はいつも素敵でした、ライオン兄弟、それは知っていますね。あなた。… 彼女はいつも来ていました。… 彼女は長い黒髪をしていて、私に会いにドアから飛び出してきて、こう言いました。“あなたはとても幸せそうに見えます。”

私は言いました、“ハニー、私は世界で最も偉大な教会を見つけました。”
私は言いました。“自分の宗教を恥じていない人たちは、叫んだり叫んだり、その他あらゆることをします。”

彼女は言いました、“どこにいたの?”

そして私は言いました、“見てみましょう、ミシヤワカのあたりです。” 私は言いました、“ああ、あなたは教会について話しています、” 私は言いました、“あなたはそのようなものを見たことはありません。信じられないかもしれませんが、何かお見せしましょう。” 私は撤退しました、と私は言いました、“一年中続けられるほど教会に来るよう招待状を受け取りました。”

彼女は言いました、“あなた、ハニー?”

そして私は言いました、“はい、私です。”

そして彼女は言いました、“まあ..”

私は言いました、“一緒に行きませんか?”

彼女は言いました。“死が私たちを引き離すまで、私はあなたとどこへでも一緒に行く約束しました。” あれは本物の妻だ。今日、彼女の勇敢な魂に神が安らかに眠ってくださいますように。すると、“どこへでも一緒に行きます。”

私は言いました、“わかりました、” 私は言いました、“さあ、両親に伝えに行きましょう。”

67 行って言いました。… 彼女は母親に言うことになっていた。私がママに話したら、ママは言いました、“まあ、” 言いました、“わかりました、ビリー。” “私が幼い頃、ケンタッキーにいた人たちのことを覚えています” は言いました、“彼らはそこにオールド ローン スター集会所を持っていました。” “人々は祭壇に降りて、祈ったり、叫んだり、走ったりしました” それは古い宣教師バプテストで

「どこへ行くんだ、ウィリアム？」

「え、はい？」

「どこへ行くんだ？」

「納屋へ……。」

「その手に何を持っている？」

(ああ、しまった。)

私は言いました。

「どっちの手ですか？」

(笑)

「こっちへ来い。」

ああ……。

しばらく砂糖はいりませんでしたね。

でも味は良かったんです、本当に。

今もその砂糖のことを話していますけれど(笑)。

父が私たちを叱るときは、革のベルトで作ったストラップを使いました。

戸口の上には“黄金律”と十戒が掲げられていて、

ヒッコリーの枝で作られた棒がありました。

あれで私たちは“教育”を受けました。

父の周りをぐるぐる逃げ回りながら、

しっかりと教えられたものです。

(テープの空白)

正直に言って、

ああいう父親が今もつといれば、世の中は良くなるでしょう。

日曜の午後に五十セントを渡して映画に行かせ、

子どもの機嫌を取るだけでなく――

本当に愛するなら、

正しく育てることです。

アーメン。

28 先日、ある家で病人のために祈ろうとしていたときの事です。

小さな男の子と、メアリーという女の子がいました。

メアリーは足を踏み鳴らして言いました。

「こんなの食べない！」

男の子はオレンジを持って、

「これ、どうしたらいいのかわからないよ！」と言って、

壁に投げつけました。

すると母親は言いました。

「いいわよ、坊や。」

ああ……。

もしあの子がチャールズ・ブラナムの息子だったら、

一週間はオレンジを食べられなかったでしょう。

父はよく、古いマスケット銃の“ラムロッド”を取り出して、

「悪魔を叩き出してやる」と言っていました。

今思えば、それが良かったのかもしれませんが。

少なくとも、私たちはそう思っていました。

そこに行ってください。”

そして私は言いました、“いいえ、私は上がることができません；あなたはじっとしています。”

彼は言いました。“ブランナム牧師、誰か何を…どこで知っている人はいますか？”

あの有色人種の兄弟は言いました、“彼はここにいます！”ふう。“彼はここにいます。”シアサッカーパンツ、Tシャツ。

言った、“さあ、ブランナムさん。”

ああ、あの兄を振り返ってみると、彼はただ笑っているだけです。

65 私は始めて、こう思いました。“主よ、私は祈りました、さて、そこに着いたら何と言うのでしょうか？”私はプラットフォームに忍び込み始めましたが、耳は本当に赤かったです。そして私は思いました、“私は何をするつもりですか？”そして、そこにマイクがぶら下がっているのが怖かったです。彼らはワイヤーにぶら下がっていました。そして聖書を手に入れましたが、震えていたのでほとんど手に入れることができませんでした。私は、“金持ちが地獄で目を上げて泣いた”からテキストを受け取ったのを覚えています。そして彼は泣き、そして私は泣きました。ハハハ。何か私を捕まえた。私は約30分間何も知りませんでした。彼らは私を外に連れ出しました。そして、私が人生で聞いたすべての叫び声。

テキサスからカウボーイブーツと大きな帽子をかぶった男がやって来て、こう言いました。“ねえ、私は一私は一私は説教者だから…”そうですね、私は思いました、“結局のところ、シアサッカーパンツはそれほど悪くありません。私は彼を見て、こう言いました。”あなたは伝道者だと聞きました。テキサスでリバイバル集会を開いてほしいのです。”

そして別の男が近づいてきて、この小さな古いゴルフパンツを履いていました、ご存知のように、あなたはニッカーボッカーパンツです。彼は言いました。“私はフロリダ出身です。たくさんの教会があります―あそこにたくさんの人が集まる教会があります。来ませんか？”

そうですね、私はこう思いました。“そうですね、私の T シャツはそれほど悪くありません、彼らはただのホームの人たちです。”だから私は信じています。…

Know It Was The Blood。”と歌っている小さな歌を歌っていました。そしてああ、彼らは皆、ただ叫び、走っているだけです。私は思いました、“さて、これについて何を知っていますか？”

63 そして私は有色人種の兄弟のそばに座りました。そして私はそこに座りました；彼らは北部で会議を開きました。そのため、南部では有色人種と白人が混在していたため、それを手に入れることができませんでした。それで、私はそこで有色人種の兄弟のそばに座りました。小さなTシャツを着ていました。誰も私のことを知らなかったの、シアサッカーパンツも買いました。私はそこに座って聞いていましたが、シンシナティ出身のカークスという男が出てきたと思います。さて、彼はペンテコステ派の組織の1つに属していますが、それがどれだったかはわかりませんが、私が覚えている限りでは、その男の幕屋はラフ、Ragh、ドイツ人、ラフ、ラフ、またはそのような名前です。そしてそれは… 私はそこに座って、こう思いました。“今日はこれをよく楽しむつもりです。”

それでこの牧師は立ち去りました；彼は言いました、「“昨夜、壇上に若い説教者がここにいました。聴衆の中で最年少だったと思います。彼の名前はブランナムです。”ビリー・ブランナム”は言いました、“彼が観客の中にいるなら？さて、私たちは彼に今朝メッセージを持ってきてほしいと思っています。”

64 私の、私は本当に低くしゃがんだので、シアサッカーパンツとTシャツ、ご存知のように、私は本当に低くしゃがみました。そして彼は再びこう発表した。「“ビリー・ブランナムがインディアナ州ジェファーソンビル出身であることを知っている人は、誰でも知っているだろう。”」言った、“彼にプラットフォームに来るように伝えてください。”

ああ、私はあんな説教者全員より先にそこに行くつもりはなかったんだ。そして私は… なぜ、私は説教できなかつたのか、私の古いサツサフラ、ゆっくりとしたバプテストのやり方は、それほど速く考えることができなかったの、彼らの仲間たちは説教していました。このようにリアルスティールを設定しました。それで、私の席に低く座りました。この色とりどりの兄弟は、こちらを見て言いました。“ところで、あの男が誰だか知ってる？”

ああ、私は窮地に立たされていた。私は言いました、その時何か言わなければなりません。私は言いました、“ほら、見てください；私は彼です、わかりますか”しかし、私は言いました、“彼らに人々に言わないでください。”私は言いました、“ほら、ここでシアサッカーパンツとこのTシャツを着ました。”

彼は言いました。“彼らはあなたがどんな服装をしようと思わない。

父は、私が値しないのに叩いたことは一度もありませんでした。私は今でも父を愛しています。

もう一度座って、ゆっくり話せたらと願います。

いつか、きっとそうなるでしょう。

あちらに行ったら、私たちは互いに分かると思いませんか？

私は信じています。

今あなたを知っているように、あのときも知るでしょう。

ただ違うのは――

その時、私たちは不死であり、

そして互いを完全に知るので。

29 なぜでしょうか。

彼らはエリヤとモーセを知っていました。

ペテロ、ヤコブ、ヨハネは彼らを見分けました。

そして、栄光のからだで戻られた主イエスを、弟子たちは認識しました。

聖書は言っています。

「私たちがどのようなのか、まだ明らかではない。

しかし、主に似た者となる。主をそのままに見るからである。」

ですから、私たちもあのようなからだをいただくのです。

主は食事もされました。触れることもできました。

私は、天国は本当に“現実の場所”だと信じています。

アーメン。

さて、学校に通い始めた頃のことを思い出します。

つい最近、あの古い校舎の跡に立ちました。

それを見つめていると、胸が張り裂けそうになりました。

私たちは、ほとんど着るものもなく学校へ行きました。

本当に貧しい子どもたちでした。

父は生粋のアイランド人で、

食料品代を払った残りは、ほとんど酒に消えました。

ある冬のことを覚えています。

貧しいこと自体は恥ではありません。

しかし私はコートもなく、着替えのシャツもありませんでした。

裕福なワセン夫人がくれたコートが一枚ありました。

袖に小さな鷲の飾りがついていました。

私はそれを安全ピンで留め、毎日学校へ通いました。

紙も持っていませんでした。

本もありませんでした。

勉強するための教材も何も。

ですから、私が無学なもの不思議ではありません。

いや、正確には“教育を受けていない”と言うべきでしょう。

今のように、学校や地域が備品を用意してくれる時代ではありませんでした。

私たちは――

本当に、何も無いところから始めたのです。

30 その年、私は本当はもっと勉強したかったのです。

でも、本もなく、教材もなく、どうすることもできませんでした。

た、大きな古い長い説教者のコートが着られていました。かわいそうな老人がこんなふう歩いて出てくる。そして彼はそこに着きました、そして私は初めてマイクを見ました。そして彼は説教していて、話し始めたばかりです；彼はそこにテキストを受け取りました：ヨブ、私は信じています、7 または 8、どこかにあります、“私が世界の基礎を築いたとき、あなたはどこにいましたか？朝星と一緒に歌い、神の子たちが喜びの叫び声を上げました。…”

そして、その老人は、とても気の毒に思いました。説教中に倒れないように、立ち上がって腕を押さえたかったのですが、彼はとても年をとっていました。そして私は思いました、“なぜ彼らは若い仲間をここに置かなかったのでしょうか？”彼らはイエスが何をされたかについて一日中説教していました。

61 しかし、彼はあちこちから戻って、このように空を横切り、再臨の際に水平の虹を下って彼を連れ戻しました。そして、彼がそこに降りた頃、その老人は叫びました、“ウーピー”飛び上がってかかとを鳴らし、プラットフォームからチップを落とし、こう言いました、“ここには私が説教するのに十分なスペースがありません。”

私はそれを見て、“兄弟、もしあの聖霊が老人にそのような行動をさせるとしたら、それは私にとって何になるだろうかと思いました？それが私が望んでいることです。まさにそれが私が望んでいることです。”

そして私はプラットフォームから降りて、こう言いました。“私の。”言った、“あなたには私が説教する余地がありません。”私は思いました、“うわー、彼はどこかの若さの泉に行ったことがあります。”私は思いました、“それが欲しいです。”

62 そしてその夜、トウモロコシ畑でズボンを押したかったので、ズボンを2つの座席の間に置き、シアサッカーをして、そこに置いて祈りました。私は言いました、“神様、それは最も素晴らしい人々です；彼らの前で私に好意を与えてください。そういう恵みを見つけさせてください。彼らは私が望んでいるものを手に入れました。”

それで、翌朝、私は打ち上げられて入ってきたのを覚えています。それは10時頃でした。彼らと一緒に食事をすることもできたが、彼らの供物に何も入れることはできなかった。だから私は彼らと一緒に食べたくなかったのです。私はパンかロールパンを食べました。それで、私は入ってきて、消火栓でおいしい飲み物を買ってきて、古いフォードを運転して立ち止まり、入りました。そして彼らは、自分たちが歌い、手をたたきながら、“I Know It Was The Blood; I

58 今、そこにそれをやった男が設定されています。私はその老人が大好きです。そして彼は去って彼の家に行き、私は彼の家を訪ねました。私たちがお金を貯めたのを覚えています。私がどれだけのお金を持っていたかは決して忘れません。私たちが貯めた旅行は6ドルか7ドルです。私は疲れていました。牧師として説教をしていた私は、そこに小さな幕屋を持っていました。私は休暇に行きました；ライアン兄弟に会いに行き、ドワジアックに行きました。そして彼は、私たちは湖で釣りに出かけました。帰りの道で家に帰り、ミシャワカを通して下ってきました。そして、それが私にとってペンテコステ派の人々と知り合う初めての機会でした。

そして、私はミシャワカ通りを通りかかったと思います。そこには大きな幕屋があり、人々は通りやいたるところで混雑していました。私は思いました、“これは何ですか？”そして私は、彼らが車の後部に“イエスは救ってください”などすべてを持っているのを見ました。そこで私は古いフォードを引き上げて立ち止まり、「“これは何ですか？”」と思いました

59 そして私は中に入ってそれが何であるかを見ました、そしてそれは宗教的な礼拝でした。でも、ああ、マナーのない人を見たことがありますか。彼らは叫び、叫び、飛び跳ねていましたが、それはバプテストにとってひどいことでした。それで私は彼らがどのように行動するかを見ました；私は思いました、“それはひどいことではないですか？まあ、彼らは教会のマナーをまったく持っていません。”

それで、でも何かが私を捕まえました。それで私は。… その夜、私は一晩中滞在したかったのですが、そうではありませんでした。。私はお金を数えました、そして家に帰るのに十分なガソリンを手に入れるのに十分なお金がありました。そして私は降りて行って、古くなったロールを買ってくれました。そして、私はそれについて数日間滞在できることを知っていました。それで私には部屋も部屋代もなかったので、その夜はトウモロコシ畑に出て寝ました。

しかし、彼らは説教者全員に壇上に来るように頼み、会議を開いていました。そしてその夜、彼はこう言いました、「“ここにいる説教者全員、私たちにはあなたが説教する時間はありませんが、立ち上がって自分の名前と出身地を言ってほしいのです。”私の場合は、”インディアナ州ジェファーソンビルの伝道師、ビリー・ブラナム“だと言いました。座ってください。

60 その日は若い牧師たちがたくさん説教していましたが、その夜牧師を説教に連れてきたとき、有色人種の兄弟がいました。彼は本当に年をとって、後頭部に白い髪の縁が少しだけありました。頭には大きなベルベットの襟が付い

春が来ました。

冬のあいだずっと、私はシャツを持っていませんでした。

暖かくなり、学校が終わる少し前のある日、先生が私に言いました。

「ウィリアム、そのコートを着ていて暑くないの？」

「脱いだらどう？」

私は脱ぐことができませんでした。

中にシャツがなかったからです。

肌に直接コートを着ていたのです。

私は言いました。

「いいえ、先生。少し寒いんです。」

先生は驚いて言いました。

「こんな日に寒いのか？」

「はい、先生。」

「じゃあ、こっちへ来てストーブのそばに座りなさい。」

あの大きな鉄のストーブを先生は強く焚きました。

汗が顔を流れ落ちました。

先生は言いました。

「まだ寒いのか？」

私は答えました。

「はい、先生。」

先生は言いました。

「家に帰りなさい。あなたは具合が悪いのよ。」

私は病気ではありませんでした。

ただ、シャツを持っていなかったのです。

だからコートを脱ぐことができなかったのです。

31 それで、どうやってまた学校へ戻ろうかと考えました。

二、三日待っていました。

丘の向こうに父の姉が住んでいて、

そこには私と同じくらいの年の女の子がいました。

その子が置いていったワンピースがあったのです。

ある日、ひらめきました。

「これでシャツを作れるかもしれない。」

私は裾の部分を取り取り、

残りをズボンの中に押し込んで、

それをシャツ代わりにして学校へ行きました。

袖は短く、

そしてそのワンピースには、ぐるっと縁に飾りがついていました。

何と言いましたかね、あの縁取りのひらひら……

そう、“リックラック”。

そのリックラックが、あちこちについていたのです。

子どもたちは言いました。

「それ、女の子の服じゃないか。」

私は言いました。

「これは俺のインディアン・スーツだ。」

け所有しているかではなく、あなたに割り当てられた部分にどれだけ満足しているかで構成されます。” そうです、[不明瞭な言葉]。

私は言いました、“ありがとう、チャーリー。できることは全部やるよ。”

56 さて、私たちは結婚しました。私たちは借りた小さな2部屋の場所に引っ越しました。私たちが家事をしていたことは決して忘れません。皆さんの多くはうつ病を覚えていますよね？ああ、私の。[テープ上の空白部分。] ストープの値段は約2ドルです。シアーズ・アンド・ローバックスに行って、塗装されていない朝食セットを買って、それを塗装しました。そして、その上に大きなシャムロックを置きました。私は[不明瞭な言葉]でした。彼女はドイツ人で、私はアイルランド人なので、私は言いました、“それを作って、大きな緑のシャムロックで赤く塗ります、ただ..私たちはただ.. 私たちはとても幸せでした。私たちは世界の商品をあまり持っていませんでしたが、幸せでした。家だった。

その時初めて行ったときのことを覚えています。。私たちは本当に幸せでした。彼女はシャツ工場に働いていて、家具を買うのに十分なお金を集めようとしていました。そして私たちは結婚して数か月が経ちました。約1年後、小さなビリー・ポールが現場に登場します。ああ、彼女は死にそうになった。そして、その小さな男の子が生まれたとき、私が床を上り下りした様子。そして、彼が生まれるとすぐに、私は彼の泣き声を聞き、叫びました。私は言いました、“ありがとう、主よ、それは男の子です、そして彼の名前はビリー ポールと呼ばれるでしょう。” [テープ上の空白部分。]

57 数分後に医者が出てきて、こう言いました。“牧師様、このリノリウムの代金を請求します。ここはあちこちで磨耗しています。” 彼は言いました。“でも、男の子がいますよ。”

私は言いました、“はい、彼の名前はビリー・ポールです。”

そして、その間に私はライアン兄弟と知り合いました。ある日、礼拝で彼に会い、ルイビルで彼の証言を聞きました。それで、彼は私を招待し、そのとき私の家に来て、ある日そこに着きました。さて、ペンテコステは私にとって奇妙なことであり、彼はそれについて何度私に話そうとしたことでしょうか。そして彼はそこに陣取り、ただ立ち上がった。彼は手を上げて、未知の言語で話し始めました。そして彼は立ち止まり、まっすぐに私を見て、私のところへ歩いて行き、私の肩に手を置いて言いました、「“ビリー兄弟、あなたは今ただの若者です；あなたにはまだたくさんの若さがあります。」しかし、いつかそれが落ち着き、全能の神があなたを使って国々をかき混ぜるでしょう。” 彼は出て行った。

言った、“はい、ビル。”

私は言いました、“できますか—少しお話してもいいですか?”

彼は言いました、“はい、どうぞ。”そして彼は振り返った。

私は言いました、“I—ポーチに出ているということです。彼がブルンバッハ夫人に周りを見回しているのを見ました。私は思いました、“ああ、ああ、ここにあります。”それで私はポーチに出て行きました、そして彼はそこに出て行きました。私は言いました。…どうしても言えなかった;どうしても言えなかった—何かを言おうとするたびに、本当に弱くなってしまふんです。私は言いました、“確かに素敵な夜ですね、チャーリー?”

彼は言いました、“はい、そうです、ビル。”少しそこにセットしてください。

私は言いました、“とても暖かかったです。”

彼は言いました、“はい、”言いました、“ビル、彼女を飼ってもいいよ。”ハハハ。なんだ、今日は彼を愛しているんだ。

私は言いました、“本気ですか?”

彼は言いました、“はい、そうです。”

ああ、そのとき私は彼を抱きしめたかったのです。言った、“あなたは彼女を手に入れることができます。”

55 私は言いました、“ほら、チャーリー、”私は言いました、“あなたが彼女に良い家を与えていることは知っています。”私は言いました、“あなたは彼女が望むものは何でも手に入れることができます;私はできません。”私は言いました、“私はわずかな賃金しか稼いでいません。”でも私は言いました、“チャーリー、彼女はもう自分のことを考えてくれる人を見つけることができませんでした。”そして私は言いました、“体内に息がある限り働いて、彼女を生計を立てます。”そして私は彼女を生業にするためにできる限りのことをします。”

私は決して忘れません;彼も今続いています。しかし、彼は私の肩に手を置いて言いました、“ビル、私はむしろあなたが彼女を産んでほしいと思っています、そして私はあなたが彼女を愛していることを知っています、そして私は彼女があなたを愛していることを知っています。”むしろあなたが彼女を手に入れるほうがいいです、そうすれば誰かがたくさん持って、彼女に良くないかもしれないかもしれません。” 言った、“結局のところ、人生はあなたが世界の商品をどれだ

(笑)

リックラックだらけの“インディアン・スーツ”。

子どもたちは笑いました。

32 あの冬のことを覚えています。

1917年でした。

インディアナに大雪が降りました。

ここオハイオでも降ったのではありませんか?

あの頃を覚えている方もおられるでしょう。

みぞれが降り、吹きだまりは十七フィート、十八フィートにもなりました。

多くの子どもたちはソリを持っていて、

雪の上を滑って遊んでいました。

でも、兄と私はソリを持っていませんでした。

そこで、ごみ捨て場から古い洗い桶を拾ってきました。

その中に二人で座り、

上は氷のように固まった雪。

足を互いに絡めるようにして、

丘を一気に滑り降りました。

他の子どもたちほど“立派”ではありませんでした、

ちゃんと滑っていましたよ。

ところが——

桶の底が抜けてしまいました。

それで、別の“ソリ”を探さなければなりませんでした。

今度は丸太を見つけて、少し切り落としました。

毎日学校から帰ると、川や森から薪を運び、

暗くなるまで木を切っていました。

その丸太を使って、氷の上を滑ったのです。

ちょうどその学校に通っていた一人の少年がいました——

(ここからまた物語が続いていきますね。)

こういう話を聞くと、

物はなくても、心は豊かだった時代を感じますね。

33 もし間違っていなければ、今日の午後、この会衆の中に私の教会——タバナクルから来ている方々がいると聞きました。

ロイド・フォードがいるそうですね。

ブラザー・ライアンなら、きっと彼をご存じでしょう。

先ほど姿を見かけた気がします。

この前、そのことを彼と話していたのです。

あの第一次世界大戦の頃——

制服を着られる年齢の者は、みな制服を着ていました。

私はどうしても兵士になりたかった。

本当に、なりたくて仕方がなかったのです。

ところが、いざ年齢が達して志願したとき、

軍は私を受け入れませんでした。

でも——

結局、私は“軍隊”に入ることになりました。

制服も着ました。

彼女は言いました、“うーん。”

私は言いました、“どう思いましたか?”

彼女は言いました、“大丈夫でした、”そして私たちは結婚しました。“ハハハ。そういうことが起こったのです。ここインディアナ州フォートウェインで結婚しました。

53 そして私たちは結婚しました。そして、彼女が私に、両親に頼まなければならないと言ったとき、私はただ...と言ったことを私は決して忘れません。ああ、全部ここにあります。...そこではうまくやっていけたと思っていましたが、ここではそれが私の前にありました。そして私は言いました、“ほら、ホープ、”私は言いました、“ご存知のように、私たちは55歳になるはずだと信じています。”ほら?私は言いました、“私はそうあるべきです。。私たちはこれらのことに550度取り組んでいます、”私は言いました、“今すぐ始めましょう、何と言いますか?”

彼女は言いました、“どういう意味ですか?”

私は言いました。“あなたは女の子なので、お母さんに聞くのが一番いいと思います。私は男の子なので、お父さんに聞くのが一番です。”

彼女は言いました、“とてもよく。”

私は言いました、“ええ。まあ、まずはお父さんに聞いてもいいですか?”彼の約束が叶ったら、まず…。

彼女は言いました、“さて、あなたは今夜彼に尋ねます。”

54 まあ、あれだけのことを経験した後、その夜はそれができなかったんです。それで私は待つて、次に上に行くときは戻りました。私はしばらく彼女と一緒にポーチに戻り、中に入ると、彼女のお父さんがタイピングをしていました。そして私たちは家に入ると、彼女は言いました。“今夜お父さんに聞いた方がいいですよ。準備をしなくてはいけないんですから。”

そして私は言いました、“はい、それは—そうです。”

それで、私が中に入ると、彼はそこにタイピングをしていて、私は彼女の母親と少し話して、周りを見回しました。私は出発しました、そして彼女は私を見ました;そして私は言いました。。私は彼女に合図した;私はそれを忘れていませんでした。それで私は言いました、“ブルンバツハさん?”

51 私たちは月明かりの夜に家に帰り始めました、ご存知のように、私たちは木陰の下を歩きました、あなたが出てくるとき、彼女は出てきます、彼女は本当に濃い茶色の目をしていました、彼女が周りを見回したとき、私はただ。。あなたは自分がどう感じているか知っています、その面白い気持ち。さて、皆さんも同じことをしました[不明瞭な言葉]、そうです。私はただ自分のことを認めます。ハハハ。さて、そうじゃないですか？はい、手を挙げてください。さて、そのほうがいいです。はい先生。

その気持ちは、“ああ、なんてことだ”なぜだろう、家に近づいた後、もしかしたら彼女はそれを忘れて、手紙を受け取らなかったのかもしれないと思ったのです。そして郵便受けに引っかかってしまったと思いました。そのとき私はかなりゲームをしました；私は通りを進むときにかなり活発に話していました。そして、次の日曜日の夜についてもう一度話します。通りを歩いて来てください。なんで、元気だったんだ。そしてちょうど私たちが家から街区ほど離れたところで、彼女は言いました、“ビリー。”

そして私は言いました、“はい？”

彼女は言いました、“あなたの手紙を受け取りました。”

ああ、また同じことが起こった。私は言いました、“えー、えー、そうしましたか？”

彼女は言いました、“うーん。”

52 まあ、私は歩き続けました；誰も何も言いませんでした。そして私は思いました、“女性、何か言ってください。”女性がどうやってあなたをそんな風に不安にさせるか、あなたは知っていますよね。そうですね、私は思いました、“確かに、男はアーメンと言うべきです。”勇敢な男になれ。ハハハ。それで彼女は言いました..ただ.. 私は思いました、“どうする？”そして彼女は一言も言わなかった。そして私は思いました、“そうですね、彼女の家からほんの数軒先なので、何か言わなければなりません。”そして私は言いました、“読みましたか？”

彼女は言いました、“うーん。”彼女が言ったのはそれだけだ。

私は思いました、“ああ、何か言って、教えてください；I—私は戻ってくることも、私を追い払うことも、何かをすることもできません、なぜなら私は一ここで大きな負担にさらされているからです。”私は言いました、“全部読みましたか？”

それは外から見えるものではありません。

内側の制服です。

それは、キリスト者としての階級。

神は私に聖霊を与えてくださり、

私は今も戦いの中にいます。

善と悪との戦い。

私は正義の側に立っています。

あなたが見えるかどうかに関わらず、

私はその制服を身にまとっていると感じているのです。

34 その少年に私は言いました。

「そのボーイスカウトの制服、

着られなくなったら、僕に出来ないか？」

彼は言いました。

「いいよ。」

でもね——

その制服はなかなか傷まなかった。

しばらくして、長い間それを着ていないのに気づきました。

私は言いました。

「ロイド、その制服はどうなった？」

彼は言いました。

「母に聞いてみるよ。」

そして戻ってきて言いました。

「だめだって。

上着は敷物にしてしまったし、

ズボン父さんのズボンのつぎあてに使ったんだ。

残っているのは、片方のレギンスだけだよ。」

私は言いました。

「それを持ってきてくれ。」

それは片足分のレギンスで、

横に小さなひもがついていました。

私はそれを学校に履いて行きたくてたまりませんでした。

でも、どうやって自然に見せるか分からなかった。

ある日、それをコートの中に忍ばせて、

丸太に乗って丘を滑り降りるとき、

わざと足を痛めたふりをしました。

「ああっ！」

「足をひどく痛めたよ。」

「そうだ、思い出した。

スカウトのレギンスを持っていたんだ。」

そう言って、それを引き上げました。

その瞬間、私は誇らしかった。

本当に、自分が“何か特別な存在”になった気がしたのです。

35 田舎の学校に通ったことがありますか？

八学年が一つの教室にある、あの古い校舎。

それで私はドアまで行ってドアをノックしました。すると彼女がドアに来て、ドアを開けました。彼女は言いました。“こんばんは、ビリー” 彼女は言いました。“入ってください。”

私は思いました、“ああ、ああ、今すぐ私をそこに入れてドアを閉めれば、ひどい状況に陥って家に入れられるでしょう。” 私は思いました。… 私は言いました、“ありがとう、ホープ、” 私は言いました、“ここのポーチに出発してもいいですか？”

言った、“ああ、いや、入ってください。”

私は思いました、“ああ、私。” それで私は中に入り、帽子を手を持って言いました、「“教会に行く準備はできていますか？”」

彼女は言いました、“ほんの数分後です。” 彼女は言いました、「“お母さん、話してくれませんか、” ああ、“私がそこで終わる間にビルに？”」

ああ、彼女が来たよ、ブルンバッハ夫人、入って降りてください。そしてああ、発汗について話してください。私は言いました、“確かに良い天気です。”

“そうだよ、ビリー。”

そこに少し設定してください; 私はその女の子は決して準備をしないだろうと思いました。それで、しばらくして彼女は出てきて、こう言いました。“とても素敵な夜です。教会まで歩いて行きましょう。”

“ああ、ああ、と思いました。時は流れている。” 私はこう思いました、“あなたと一緒にいるのはこれが最後なので、本当に良く見えたほうがいいです。だから、それはわかっています。持っていました。… サタンがあなたにどのように嘘をつくかはご存知でしょう。彼はあなたに何でも信じさせるでしょう。” 私は思いました “これだけです; 彼女は私に終わりを教えてくれるでしょう。”

それで私は下って行きましたが、その夜その説教者が何を言ったのか聞くことはありませんでした。私は彼女を見て設定していました; 私はただ、彼女がどれほど美しく、どれほど素敵だったか、そして彼女が誰かに良いことをしてもらえようことをどのように望んでいたかを考えていました。そして私は彼女を見て、こう思いました。“私の。” デイビス兄弟は説教をしていますが、私は彼の言うことを聞いたことはありません。彼は退いて外に出た。私は思った。“今がそれを理解した。”

さて、それは親愛なるミスではありませんでした、それはそれよりも少し多かったです、それを何と呼びますか、どろどろ、わかりますか？そして私は彼女に私と結婚してくれるかどうか尋ねました。そして、ある夜、私はそれをすべて書き出して、手紙に入れました。そして翌日、仕事に行く予定だったので、箱に落としてしまいました。そして、日曜日の夜か水曜日の夜に彼女を教会に連れて行くつもりだったことはわかっています。

49 それで、水曜日の夜になり始めると、私は緊張し始めます。なぜなら、私はそれを忘れて箱に入れて、“もし彼女の母親がそれを手に入れたらどうしますか？”と思ったからです。さて、彼女の母親は立派な女性で、今日の午後ここにいるかもしれません。そして、私は害を及ぼすためにこれを言っているわけではありませんが、彼女の父親はただの本当に良い人でした。彼は本物のドイツ人です、ブルムバッハ。そして彼女の母親はスコットランド人だったので、私は彼女の父親であるチャーリーと仲良くすることができました。しかし、彼女の母親と私はただ一物事を本来あるべきように見ていませんでした。彼女は親切でした、ご存知のように、ちょっとした古典的で、私はこの耕作少年の一人にすぎませんでした。そこで私はこう思いました。“さて、もし彼女の母親がそれを手に入れたらどうなるのでしょうか、ああ、なんてことだ。そこに行ったら何かもらえるよ。”

それで水曜日になると緊張しすぎてほとんど上がれませんでした。私は古いバックスライド式のフォードを持っていましたが、それは本当にバックスライド式でした。そして、私はそれで時速40マイル近くを稼ぐことができました。それはこちらに20マイル、こちらに上下に20マイルでした。

50 それで、私がミシガン州ドワジアックで初めてジョン・ライアン兄弟を訪ねたのはあのフォードだったのを覚えています。この話を覚えていますか、ライアン兄弟。それで、私はこう思ったのを覚えています。“ああ、なんてことだ。”私の知る限り、私が人生の物語を語っていたときにライアン兄弟がプレゼントを贈ったのはこれが初めてだと思います。これにはすぐに彼も含まれる予定です。

そして、私は…で思い出しました。私は思いました。“さて、もし彼女の母親がそれを手に入れたら、私はどうするのでしょうか。何か問題が起きるでしょう。”

それで、水曜日の夜になると、私は車で前に出ました。クラクションを鳴らすよりもよく知っていました。なぜなら、この少年たちは、女の子と一緒に行く価値があるなら、前に出てクラクションを鳴らすのではなく、中に入って彼女を捕まえる価値があると思うからです(そうです)。

私は黒板の前に立って、問題を解いていました。

片足にだけあのレギンスを履いて。

みんなに見えるように、

少し横向きに立って、

そのレギンスが見えるようにして。

子どもたちは笑いました。

私は泣き出しました。

先生は私を家に帰しました。

あの頃は、本当に苦労が多かった。

クリスマスの頃のことも覚えています。

母がポップコーンを作ってくれました。

それは珍しいごちそうでした。

他の子どもたちは、

お母さんが焼いたオーブンのパンを持ってきていました。

サンドイッチ、ケーキ、クッキー。

でも私たちは――

小さな糖蜜のバケツほどの入れ物に、

片方には青菜の瓶、

もう片方には豆の瓶。

間にパンを挟んで、

スプーン一本。

私たちは他の子どもたちの前で食べるのが恥ずかしかった。

だから学校の裏の丘に行き、
二人で並んで座り、
瓶を間に置いて分け合って食べました。
神が彼を祝福してくださいますように。
彼は今、栄光の中にいます。

あの小さな昼食を、
兄と向き合って、静かに分け合って食べた——
あれは貧しさの記憶であり、
同時に、愛の記憶でもありました。

36 クリスマスの頃、母がツリーに飾るためにポップコーンを作ってくれたことを覚えています。

古い杉の木を立てて、その周りにポップコーンを糸で巻きつけました。
少し余ったので、小さなバケツに入れて、私たちに持たせてくれました。
その日、私はそれを学校へ持って行きました。
十時ごろになると、
「どんな味がするだろう」と気になって仕方がなかった。
私は手を挙げました。
先生が指してくれたので言いました。
「外へ行ってもよろしいですか？」
「いいですよ。」
クロークルームを通り抜けるとき、
そっとふたを開けて、大きなひと握りを取りました。
そして古い煙突の後ろに回り、

それで、私は彼女がどれほど親切だったかと思いましたが、彼女の父親は大恐慌の時代にペンシルベニア鉄道の主催者で、月に約500ドルか何かを稼いでいました。私は溝を掘って1時間に20セント稼ぎました。そんな女の子を連れて行くには何がいの？でも彼女はとても素敵でした。今日の彼女の墓には、私が植えたばかりの花がいくつかあります。彼女はその下に横たわっていません、彼女の体。彼女の魂は私の赤ちゃんとともに栄光に輝いています。私は今日も心から彼女を愛しています。そして彼女は、…なんて素敵な人なんだろう。

47 そして彼女は私の人生に入ってきました。そして、それが「さあ、あなたはそうしなければなりません。」と言わなければならない場所に到達したことを私は知っていました 私は彼女と結婚しなければなりません、さもなければ彼女を放っておかなければなりません、彼女に誰かをさせてください。そのような女の子、女性は間違いなく彼女に良い人を見つけるでしょう、そして私は彼女の世話をするのに十分なお金を稼いでいませんでした。“そこで私は言いました。”まあ、私がしなければならない唯一のことは、彼女に別れを告げて、彼女の世話をしてくれる他の男の子に任せなければならないということです。“私は彼女を十分に愛していました。たとえ彼女と一緒にいることを犠牲にし、誰かに掴んでもらい、彼女の世話をして良い生計を立てさせてくれる彼女を連れて行かなければならなかったとしても。

それで私は決心しようとして、こう言いました。“そうですね、私は.. たぶんできる。彼女のために生計を立てられるかもしれない。”私は言いました、“彼女にそれを聞くのはとても難しいです。”それでついに私は思いました、“彼女にどうやって尋ねればいいのでしょうか？”そして、あなたは私がどうやってやったのか疑問に思っていると思います。私は.. 約1か月間、私はそれをするのに十分な神経を働かせようとしてきました。兄弟たちがそんなに苦労しているかどうかはわかりませんが、私はひどい時間を過ごしました。そして私は彼女を見て、彼女はきれいで、良い子だと思いました。そしてなぜそうするのでしょうか.. “ああ、一緒に幸せになれないだろうかと思いました。あまり多くはないかもしれませんが、幸せになれるかもしれません。”そこで私はこう思いました。“どうやってやるの？”

48 それで、私は彼女に尋ねてみました、そして私は.. あなたは自分がどう感じているか知っています、その本当に面白い気持ち、そして私はただ.. それは私を窒息させるでしょう、そして私はそれができませんでした。それで、私が彼女に結婚を申し込んだ方法を知っていますか？私は彼女に手紙を書いて、結婚してくれるかどうか尋ねました。それで私は..

まるで囚人のようです。どうしたらいいのか分からない。」

あの夜は、本当に孤独でした。

けれど今、振り返ってみると、

すべてが神の大きなご計画の中にあつたと分かります。

あのとき、たくさんの友を失ったように思えました。

でも今日、主はそれを一万倍にもして返してくださいました。

正しいことを選び、

主にしがみついたことによって。

あのとき私は言いました。

「いっそ人生を終わらせてしまおうか。」

でも少しして、こう思い直しました。

「いや、やり抜こう。」

時は過ぎ、

多くの出来事が起こりました。

——

あの孤独な夜さえも、

主の手の中にあつたのです。

46 結婚したときは…。この女の子に会った。今日の午後、息子が母親について知るためにプレゼントを用意してくれたので、とてもうれしいです。彼女はあらゆる点で女性でした。彼女はクリスチャンの女の子でした。そして私は彼女に会いました、そして彼女はとても親切でした。そして私は彼女と一緒に始めました。そして彼女はタバコを吸ったり、飲んだり、踊ったり、そのような場所に行ったりしませんでした。それで、私たちがやることは、夜に乗馬に行くことだけで、特定の時間、9時に乗らなければなりませんでした。そして私は戻ってきます；彼女はとても女性で、素敵な両親です。

そのポップコーンを食べました。

ああ、本当においしかった。

昼休みになれば、きっと減っているのが分かるだろうとは思いました。

でも子どもですから、

まず先に食べたくなるものです。

丘の上に行き、

「さあ、ポップコーンを食べよう」と開けてみると、

半分近くなくなっていました。

兄が言いました。

「おい、何かあつたんじゃないか？」

私は答えました。

「うん、あつたよ。」

37 少し前、テキサスでのリバイバル集会から帰る途中のことです。

家族と一緒にでした。

時間が少し空いたので、昔住んでいた方へ車を走らせました。

妻と赤ん坊を連れて。

古い学校の跡地のそばで車を止めました。

妻と子どもはスマイルを摘んでいました。

私は、あの古い手押しポンプの水を、もう一度飲みたくなったのです。

その水は本当においしかった。

フロリダやアリゾナにどれほど美しい景色があっても——

このアメリカ中部の石灰岩の土地から湧き出る水に勝るものはない、と私は思います。

私は水を飲み、
フェンスにもたれ、
かつて学校があった場所を見上げました。
もう校舎はありませんでした。
戦時中のことを思い出しました。
私たち子どもたちは整列し、
靴の先からつま先が亀の頭のように飛び出していて、
くたびれた靴下は下がり、
互いに肩を組むように並んでいました。
先生は大きな棒を持って、
私たちを整列させ、
足並みをそろえて中へ入らせました。
あの光景が、目の前に戻ってきたのです。

38 私は、あの整列していた子どもたちの列を、心の中で一人ずつたどっていききました。

「ラルフ・フィールズ……もう永遠の中にいる。
ウィリアム・ヘンゼルも……永遠の中。」
その隣は誰だったか——
「私だ。」
その次は——
「エドワード……永遠。」
振り返ると、
「ビル・オールト……永遠。」

美しく座って煙草を吸っていました。
彼女は言いました。
「ビリー、一本どう？」
私は答えました。
「いいえ、吸いません。」
彼女は言いました。
「あなた、踊らないとも言ってたわね。」
彼女たちはダンスに行きたがっていました。
「いいえ。」
「踊らない、飲まない、吸わない……」
「じゃあ、何が好きなの？」
私は言いました。
「狩りや釣りが好きなんだ……」
(テープの空白)

45 私はその場を立ち去り、丘の上へ行きました。
月明かりの下、野原に一人で座りました。
そして祈りました。
「友だちができない。
僕はみんなの中で“はみ出し者”だ。
主よ、どうか私を死なせてください。
こんな生き方はしたくありません。」

そして言います。

「私を神の預言者として受け入れるなら、
栄光の門に入ることを望むなら、
そのようなことから離れなさい。」

——

言葉は厳しいですが、

そこにあるのは“裁きたい心”ではなく、
“守りたい心”です。

彼の時代、

それは道徳と信仰を守るための強い呼びかけでした。

強い表現の奥にあるのは、

「あなたの魂は尊い」という思いなのです。

44 私は、小さな少年だったときに主に会ったことを覚えています。

そのとき最初に言われたことは、こうでした。

「決して酒を飲むな。

煙草を吸うな。

どんな形でも自分の体を汚してはならない。

年を取ったとき、あなたには為すべき働きがあるからだ。」

あの藪の中で御使いが現れたときのことは、

皆さんもご存じでしょう。

さて——

あの夜、あの若い女性は、

その後ろはハワード・ヒギンズ……永遠。」

一人、また一人と、

皆がもう向こう側へ行っていました。

私は丘の上を見上げました。

あの古い家があった場所。

そこには住宅団地が建っていました。

家はもうありません。

泉は埋められ、

畑は芝生の庭になっていました。

ほんの二十数年の間に、

すべてが変わってしまったのです。

私は涙がこみ上げてきました。

「神よ……ここには永遠に続く都はない。」

父の姿が浮かびました。

黒く波打つ髪をなびかせ、

畑を横切って帰ってくる姿。

門のところで母と出会い、

私たち子どもを抱き上げて、家へ入っていく姿。

でも、もう過去です。

家は崩れ去りました。

「ここには、永遠に続く都はない。

しかし、私たちは来たるべき都を求めている。

その都の設計者であり建設者は、神である。」

39 私はそこに立ったまま、泣き崩れました。

あの日、兄のポップコーンをひと握り取ってしまったことを思い出したのです。

困ったときにはパンの端切れでも食べた——それは本当です。

誰かがサンドイッチを買ってくれても、

いつか自分で返したいと願いながら、それができませんでした。

集会でいくつか献金をいただいたとき、私は祈りました。

「神様、どうかあの時に戻らせてください。

あのひと握りのポップコーンを、兄に返させてください。

何でも差し出します。どうか、それをさせてください。」

兄は十九歳で亡くなりました。

私が西部で牧場の仕事をしていたときです。

彼は病院で、私の名を呼びながら息を引き取りました。

通りまで聞こえるほどの声で、

「もう一度、兄のビルに会わせてくれ。

良い子でいるように伝えてくれ。」

そして彼は去りました。

私の心には、あのポップコーンのひと握りが、

重いしみのように残っていました。

彼の墓を思い出します。

私たちは本当に仲の良い兄弟でした。

初雪が降ったとき、

どんな習慣であれ、

私たちは自分の体と心を、

主の前で尊いものとして扱うべきだ——

彼はそう感じていたのでしょうか。

43 兄弟よ、ロシアが攻めてくることを恐れる必要はありません。

私たちは、自分たちで自分たちを滅ぼしているのです。

問題は外からではなく、内側から来る。

リンゴをついばむ鳥がリンゴをだめにするのではない。

芯の中にいる虫が、それを腐らせるのです。

今の時代も同じだ——

そう彼は言います。

土台を白アリが食い荒らすように、

道徳の崩れが国を弱くしている、と。

どうか、すぐに席を立たないでください。

少し聞いてください。

もしあなたがそうした習慣を持っているなら——

主イエスのために、今日を区切りにやめてください。

今この瞬間から、やめてください。

彼はこう強く語ります。

「神の御使いが示されたとおりに語っている。

もしそれが天の門に入る妨げになると示されたなら、

あなたは外に立つことになる。」

タバコをくわえて座っていたのです。

42 私は昔から、タバコを吸う女性については自分の考えを持っています。

そして、その考えは今も変わっていません。

私はここで福音を説くつもりはありません。

それは他の牧師方の役目です。

でも、姉妹よ、こう言わせてください。

当時の私の目には、それは女性が自分を下げる行為に見えたのです。

統計の話も耳にしました。

子どもへの影響について語る医師もいました。

それがどれほど正確かはともかく、私は「体を大切にすべきだ」と感じていました。

ほんの数時間前、朝食をとっていたときのことです。

小さな食堂で、ある年配の女性が座っていました。

顔にはたくさんの化粧が施され、

そして手にはタバコ。

煙をくゆらせながら座っている姿を見て――

私は怒りよりも、むしろ哀れみを感じました。

人は本来、尊い存在です。

神のかたちに造られた存在です。

だからこそ、自分を大切にしてほしいと、

そう思ったのです。

(ブラナム兄弟の語りは、しばしば強い表現になりますが、その根底には「人は神のものだ」という思いがありますね。)

私は母の毛布を一枚持って、

墓の上にかけて行きました。

「寒いだろう」と思ったのです。

あの頃、私はまだクリスチャンではありませんでした。

でも今は分かります。

彼はそこにはいません。

もう先へ行っているのです。

40 私は泣き始めました。

妻と小さな娘がそれを聞いて、駆け寄ってきました。

「ビル、休むために帰ってきたんでしょう？」

そう言って、娘を私の肩に乗せてくれました。

私はもう一度、あの古い場所を振り返りました。

Precious memories, how they linger,

How they ever flood my soul;

In the stillness of the midnight,

Precious, sacred scenes unfold.

尊い思い出よ、どれほど心に残ることか。

静かな夜に、聖なる光景が広がる。

やがて車に乗り、そこを離れました。

私は少年の頃、とても内気でした。

話せば長くなりますが――

実は、若い頃の私は、女の子があまり好きではなかったのです。

父が川辺へ飲みに行くとき、
私は既婚の女性たちが、夫と一緒にではなく現れるのを見ました。
そして、その振る舞いを見て、心に決めたのです。
「もしあれが本当の姿なら、
私は関わりたくない。」
だから私は決めました。
結婚はしない。
女性とは関わらない。
私は猟師になるつもりでした。
狩りと罾猟が大好きでした。

41 そして——
どうしてそんな私が結婚したのか、不思議に思うでしょうね。
でも、十七、十八歳になった頃、
私にも“最初のデート”がありました。
男の子なら分かるでしょう。
初めての恋人。
鳩のような目、
真珠のような歯、
白鳥のような首。
人生で見た中で一番きれいに思えた人。
私は、そんな一人に出会ったのです。
近くに住んでいた友だちが言いました。

「こうしよう。
俺の彼女もいるし、二人を一緒に連れて行こう。」
彼は父親の古いフォードを借りると言いました。
後ろをジャッキで持ち上げ、
少しガソリンを入れ、
クランクでエンジンを回す——あのやり方、覚えていますか。
二ガロンのガソリンを買えば、
しばらくは走れました。
それで、二人の“ガールフレンド”を乗せて、
ドライブに出かけたのです。
あの夜のことは忘れません。
途中、小さな店に寄って、
サンドイッチとコーラを買いました。
外で食べて、
コーラを飲み、
私は空き瓶を返しに行きました。
ちょうどその頃、
女の子たちが“気取った”振る舞いをし始めた時代でした。
タバコを吸い始めたりするような。
瓶を返して戻ってくると——
驚いたことに、
私の“小さな女王様”が、